

高知市中央消防署西出張所外壁改修工事

図 面 リ ス ト									
意 匠 図									
A-01	改修特記仕様書（１）	A-11	北立面図	A-21	屋外階段				
A-02	改修特記仕様書（２）	A-12	東立面図	A-22	建具表1【参考図】				
A-03	改修特記仕様書（３）	A-13	1階天井伏図	A-23	建具表2【参考図】				
A-04	改修特記仕様書（４）	A-14	中2階天井伏図	A-24	建具表3【参考図】				
A-05	付近見取図・配置図・仮設計画図	A-15	2階天井伏図	A-25	建具表4【参考図】				
A-06	1階平面図・仮設計画図	A-16	3階天井伏図						
A-07	2階・3階平面図・仮設計画図	A-17	R階天井伏図						
A-08	屋上平面図・屋根伏図・仮設計画図	A-18	矩計図1						
A-09	南立面図	A-19	矩計図2						
A-10	西立面図	A-20	詳細図						

2026.07

高知市中央消防署西出張所外壁改修工事

特記仕様書

I 工 事 概 要

1. 工事場所

高知市朝倉南町8番35号

2. 工事種目

【西出張所】鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 3階建て 延べ面積1,693.02㎡
1) 外壁改修一式

3. 関連工事等

・電気設備工事・機械設備工事・ガス設備工事・昇降機設備工事・植栽工事
・合併処理装置設置工事・外構工事

4. 概成工期

・完成期限の()日前 (令和 年 月 日)
・総合試運転調整・実施する・実施しない

5. 部分使用(工事請負契約書第34条第1項)

令和 年 月 日からは、全ての室内部分を使用する。

II 建 築 工 事 仕 様

1. 特記仕様

1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。○印のつかない場合は、※印の付いたものを適用する。
○印と㊸印の付いた場合は、共に適用する。
3) 特記事項に記載の()内表示番号は、「公共建築工事標準仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。
特記事項に記載の[]内表示番号は、「公共建築改修工事標準仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。
特記事項に記載の< >内表示番号は、「建築物解体工事共通仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。

2. 適用基準等

図面及び特記事項に記載されていない事項は、全て国土交通省(建設)大臣官房官庁営繕部監修の以下による
・公共建築工事標準仕様書(建築工事編)(令和7年版)
※公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)(令和7年版)
※建築工事標準詳細図(令和4年版)
・敷地調査共通仕様書(令和4年版)
・建築物解体工事共通仕様書(令和4年版)

3. 「週休2日制工事」の実施について

※対象(○選択Ⅰ型・選択Ⅱ型)
本工事は、工事着手日から工事完成日までの間の土曜日及び日曜日を現場の休工日の基本とする。
「週休2日制工事」の対象工事である。実施にあたっては高知市「週休2日制工事」実施要領(営繕工事編)による。
(https://www.city.kochi.kochi.jp/soshiki/123/syukyuhtsuka.html)
・対象外(理由：)

4. 「猛暑による作業不能日数」の実施について

※対象 ○見込んでいない (理由： ※過去のWBGT値に基づき算定した日数が0日のため)
・見込んでいる (作業不能日数： ※現場説明書による)
・対象外(理由：)

5. 「中東情勢の変化等による建設資材の流通状況を踏まえた設計変更」について

※適用する(現場説明書による)・適用しない

項 目

特 記 事 項

一般共通事項

① 工事実績情報システム(コリンズ)への登録(請負金額500万円以上)(受注、変更、完成時)

登録の手続きについては、(一財)日本建設情報総合センターの「建設実績情報のコリンズテクリス登録システム利用規約」による。

[1.1.4]

② 情報共有システム

・適用する ※適用しない
機能要件(・現場説明書による・)

[1.1.5]

③ 遠隔臨場の実施

・適用する ※適用しない
実施内容(・現場説明書による・)

[1.1.14]

4 総合工程表

原則、工事の着手に先立ち、別契約関連工事の受注者と協議し、受注者及び別契約関連工事の受注者連名による総合工程表を監督職員に提出する。

5 総合図

工事の施工に先立ち別契約関連工事の受注者と調整のうえ、総合図を作成し、監督職員の承諾を受ける。

[1.2.3]

⑥ 工事日誌

週ごとに工事の全般的な経過及び次週の工事予定を記載した日誌を監督職員に提出する。
また、工事の経過が明確にわかる写真を貼付すること。

[1.2.4]

⑦ 工事写真

工事写真は1版程度とし、工事の内容、日付等必要事項を記入し1部提出する。(A4版台紙)
撮影方法は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「営繕工事写真撮影要領(令和5年版)」による。
デジタル工事写真の小黑板情報電子化の実施をする場合は、監督職員の承諾を受ける。
なお、実施については、国営建技第14号(令和5年3月1日付)「デジタル工事写真の小黑板情報電子化について」による。

[1.2.4]

⑧ 下請負者の報告

各下請負者については下請負契約前に監督職員に報告する。

9 電気保安技術者

適用する。

[1.3.3]

⑪ 施工条件

施工日及び施工時間 ※1.3.5(1)(7)による。
・施工順序・図示
工事用車両の駐車場所及び資機材の置場所
※ 仮開内 ○ 図示

[1.3.5]

⑪ 交通誘導警備員

その他の施工条件
○ 資機材の搬出入時には、専任の誘導員を配置する。その他の場合でも、工事関係車両(乗用車も含む)が敷地内を通行する際には必ず誘導するものをつけ、公道まで徐行する。
○ 施設を利用しながらの工事となるので、作業時期等は施設管理者と協議すること。
・ 図面番号A-05、A-06、A-07、A-08参照
・
交通誘導警備員を配置する場合は、原則として警備業法(昭和47年法律第117号)第4条による認定を受けた警備業者の警備員を配置することとし、建設作業員等の他職種の者を従事させないこととする。ただし、一時的な作業等で、安全確保に対処できると監督職員が認めたものについては、この限りでないものとする。
配置人員等
・ 令和 年 月 日から令和 年 月 日までの間は 名常駐する。
・ 作業日は 名常駐する。その他監督職員と協議し、適宜配置する。
○ 監督職員と協議し、適宜配置する。
配置人員の資格
・ 1名以上／1班は交通誘導警備業務に係る検定合格者(1級又は2級)を配置する工事。
※ 交通誘導に關し、1名以上／1班は専門的な知識及び技能を有する警備員等を配置する工事。
資格要件 配置人数
1, 2級交通誘導警備検定合格者(交通誘導警備員A) 交通誘導警備に關して、公安委員会が学科及び実施試験を行い、専門的な知識及び技能を有すると認めたもの 4人
交通誘導に關し、専門的な知識及び技能を有する警備員等(交通誘導警備員B) 警備業法における指定講習を受講したものの警備業法における基本的基礎教育及び業務別教育(警備業法第2条第1項第2号の警備業務)を現に受けているもので、交通誘導に關する警備業務に従事した期間(実務経験年数)が1年以上であるもの 4人
なお、事前に監督職員に検定合格証の写し等の資格要件の確認できる資料を提出する。

⑫ 工事安全計画書

建設工事公衆災害防止対策要綱及び建築工事安全施工技术指針を参考に、工事安全計画書を監督職員に提出する。

⑬ 統括安全衛生管理義務者の指名

労働安全衛生法(昭和47年法律第57号)第30条第2項に基づき指名をする。

⑭ 発生材の処理

産業廃棄物の運搬、処分等については、1.3.12により適切に処分するものとし、[1.3.12]
事前に監督職員に処理計画書を提出する。
産業廃棄物の運搬、あるいは処分を他業者に委託する場合は、書面による委託契約を行い、処理計画書にその写しを添付する。
自己処分場で処分する場合は、その処分場が関係法令の規定に適合する旨の資料を提出し、監督職員の現地立会を受けたうえで承諾を得る。(積替・保管についても同様とする)
産業廃棄物の収集・運搬に当たっては、廃棄物の処理及び清掃に関する法律(以下産業廃棄物処理法という)施行令に基づく車両への表示及び書面の備え付けを行うこと。
また、産業廃棄物を搬出する車両について、処分場ごとに1台のみ写真撮影(現場搬出時及び処分場到着時)し、随時監督職員に報告する。
廃棄物処理法を遵守し、工期内に最終処分(埋立処分、海洋投入処分又は再生)を終了しなければならない。
また、産業廃棄物管理票(以下マニフェストという)により適正に処理されていることを確認するとともに、監督職員にそのB票の写しを提出する。
ただし、廃棄物処理法を遵守した上で、工期内に産業廃棄物の最終処分を終了することが困難な場合で、監督職員が認める場合においては、工期内に中間処理業者への搬入が終了すればよいものとする。
この場合、マニフェストにより適正に中間処理業者に搬入されていることを確認するとともに、監督職員にそのB2票の写しを提出する。また、最終処分終了後速やかにB票の写しを提出する。
なお、廃棄物処理法に定める電子情報処理組織を使用する場合は別途協議する。
・ 引渡しを要するもの(・)
・ 現場再利用を図るもの(・)
・ 再資源化を図るもの(※コンクリート ※コンクリート及び鉄から成る建設資材 ※木材 ※アスファルトコンクリート)
特別管理産業廃棄物の施工計画調査
※ 行う・行わない
分析調査
※ 施工計画調査の結果により、監督職員と協議する。
・ 行う(・)・行わない(・)
・ PCBを含む機器類
・ 変圧器
・ コンデンサ
・ 蛍光灯、H I D灯器具の安定器
・ その他()
・ PCB含有シーリング材
・ 廃油
・ 廃酸 廃アルカリ
・ 臭化リチウム水溶液
・ 電池の溶解液
・ ダイオキシン類

⑮ 再生資源利用(促進)計画書及び実施書の提出(請負金額100万円以上)

再生資源利用(促進)計画書及び実施書を、建設副産物情報交換システム(コプリス・プラス)により作成し、提出は以下による。
a) コプリス・プラスについては、建設副産物情報センターのホームページ(https://fkplus.jaic.or.jp)より、利用申請等を行うことができる。
b) 建設資材の利用量の大小や有無に関らず、紙に出力した再生資源利用計画書及び実施書(建設リサイクルガイドライン様式1)を、完成資料として監督職員に提出する。
c) 建設副産物の発生量及び搬出量の大小や有無に関らず、紙に出力した再生資源利用促進計画書及び実施書(建設リサイクルガイドライン様式2)を、完成資料として監督職員に提出する。
d) 受注者は再生資源利用(促進)計画書(現場掲示用様式)を工事現場の見やすい場所に掲げること。
e) 受注者は作成したデータを含め、再生資源利用(促進)計画書及び実施書を工事完成後5年間保存する。

⑯ 工事の保険

工事請負契約後、速やかに工事事務物、工事材料等に生じる損害、第三者に及ぼした損害を補償する保険を締結する。保険期間は、工事着工のときから完成期限より24日後以降までの期間とする。
※ 金銭的保証方式・
・ 有 ○ 無

⑰ 契約保証

⑱ 証明書の提出(グリーン購入法)

「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」(グリーン購入法)及び「高知県グリーン購入基本方針及び実施計画」に基づき、重点調達品目については、積極的に利用すること。なお、重点調達品目の中で木材・木材製品等においては、その原料とされる原木が生産された国における森林に関する法律に照らして合法なものを使用する。

⑳ 石綿含有建材の調査

木材・木材製品等については、県産木材納入証明書、県外産合法木材納入証明書を監督職員に提出すること。[1.4.2]
事前調査の報告 一定規模以上の工事は労働基準監督署と高知市に報告が必要となる
事前調査範囲 ※ 改修範囲 [1.5.1]
事前調査は、建築物石綿含有建材調査者(特定、一般)又は、令和5年9月30日までに(一社)日本アスベスト調査診断協会に登録されたものが行うこと。
貸与資料 ※ 有 (○既存の設計図書 ○石綿含有分析調査表)
・ 無
分析結果 【外部】リソ吹付、吹付け材：含有無し
分析調査 ※ 書面調査及び現地での目視調査の結果により、監督職員と協議する。
・ 行う(調査建材使用部位 調査建材名 検体数)
分析方法 ※ 定性分析
定性分析の結果により、定量分析を行う場合は監督職員と協議する。

㉑ 施工数量調査

調査範囲 ㊸ 図示 ○改修建物の外壁、軒天、バラベット [1.6.2]
調査方法 ※ 外部足場を使用した目視及び打診
破壊部分の補修方法 ※ 現状に復旧
外壁調査は、外壁改修フロアに対する外壁面のひび割れ、浮き、欠損部、内部まで貫通したひび割れ及び雨漏りの有無についての位置及び数量(幅、長さ、面積)の調査を行う。
また、その調査の結果を立面図等に記載し集計表を添えて電子データと共に、監督職員に報告する。(必要に応じ写真等を添付する)

㉒ 技能士及び技能資格者

※ 適用する (○：一級、●：二級) [1.7.2][1.7.3]

工 事 種 別	技 能 検 定 の 作 業 の 種 別
○仮設工事	※●とび作業(又は足場組立作業主任者)・
・鉄筋工事	※○鉄筋組立て作業・
・コンクリート工事	・○コンクリート圧送工事作業・○型枠工事作業
・鉄骨工事	※●とび作業
・ブロック・ALCパネル工事	・○コンクリートブロック工事作業 ・(単一)エーエルシーパネル工事作業
○防水工事	・○アスファルト防水工事作業 ・○ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・○アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・○合成ゴム系シート防水工事作業 ・○塩化ビニル系シート防水工事作業 ・○セメント系防水工事作業○○シーリング防水工事作業 ・○改良アスファルトシートトーチ工法防水工事作業 ・○FRP防水工事作業
・石工事	※○石張り作業・
・タイル工事	※○タイル張り作業・
・木工事	※○大工工事作業・
・屋根及びとい工事	・○かわらぶき・●スレート工事作業・○内外装板金作業
・金属工事	○鋼製下地工事作業・(単一)金属製バルコニー工事作業
・左官工事	※○左官作業・
・建具工事	・○ビル用サッシ施工作業 ・○木製建具製作・○ガラス工事作業
・カーテンウォール工事	※○金属製カーテンウォール工事作業・
○塗装工事	※○建築塗装作業・
・内装工事	・○プラスチック系床仕上げ工事作業・○壁装作業 ・●カーペット系床仕上げ工事作業・○畳製作作業 ・○ボード仕上げ工事作業
・植栽工事	※○造園工事作業
○その他	○一級又は(単一)樹脂接着剤注入作業(エポキシ樹脂注入工事) ・○家具手加工作業

適用する技能士について、当該資格を有することが確認できる書類及び資格者が特定できる書類(運転免許証等)の写しを提出する。

23 化学物質の室内濃度の測定

化学物質の室内濃度を測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し、報告書を監督職員に提出する。[1.7.9]
ただし、完成検査前に報告書の提出が困難な場合は、事前に信頼における速報等の資料を監督職員に提出する。この場合、後日に正式な報告書を速やかに監督職員に提出しなければならない。
測定する業者の選定にあたっては、あらかじめ監督職員に報告すること。
測定方法
※ 厚生労働省「室内空気中化学物質の室内濃度指針値及び標準的測定方法について」による。
測定対象化学物質
※ホルムアルデヒド ※トルエン ※キシレン ※エチルベンゼン
※スチレン ※パラジクロロベンゼン・
測定箇所 ()箇所 施工前・施工後(計 回測定)
測定対象室 ()
なお、測定結果が厚生労働省の定める指針値を超えている場合は、原則として本工事の引き渡しを行わないこととする。ただし、次のいずれかに該当する場合は除く。
1 何らかの対策が施された結果、揮発性有機化合物の濃度が厚生労働省の定める指針値以下となったことが確認された場合。
2 濃度測定の結果が、本工事の施工により生じたものでないことが明確である場合。
3 濃度測定が、使用開始後(備品の搬入等を含む)に行われた場合。
本工事の引き渡し後、あるいは、使用開始後に室内の揮発性有機化合物(VOC)の濃度測定が行われ、測定結果が厚生労働省の指針値を超えている場合については、受注者は、工事引き渡し後であっても、その原因究明に当たって協力しなければならない。
また、本工事の施工が原因となつて、化学物質の濃度が厚生労働省の定める指針値を超えたものであることが判明した場合は、受注者の負担により、その対策を講じなければならない。

24 直接仮設の養生

内部養生に合板又は構造用パネルを使用する場合、その合板または構造用パネルのホルムアルデヒド放散量はF☆☆☆☆、又はそれと同等と認められる製品を使用する。

㉓ 建築材料等

本工事に使用する材料等のうち、特定のものが特記された場合は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等のものとする。(記載順序は不同)また、「評価名簿による」と特記されたものについては、(一社)公共建築協会発行の「建築材料・設備機材等品質性能評価事業建築材料等評価名簿」によるもの、又は評価の内容についてこれらと同等と認められるものとする。
ただし、同等とする場合は、監督職員の承諾を受ける。
県内産資材の優先使用
本工事に使用する資材は、機能、品質、価格等が同等であれば、県内産資材を優先して使用するものとする。 なお、県外産資材を使用する場合は、使用理由を施工計画書の打合せ事項に記載し、監督職員の確認を受けること。
注1： 県内産資材とは、高知県内で産出した原材料を用いて、高知県内で製造、加工した資材、又は高知県外で産出した原材料を用いて、高知県内で製造、加工された資材をいう。
ただし、①木材は、高知県内の森林から生産されたもの、②生コンクリートの細骨材に配合する海砂は、高知県内で産出されたものとする。
注2： 県外産資材とは、県内産資材以外の資材をいう。

高 知 市 都 市 建 設 部 公 共 建 築 課

工 事 名
高知市中央消防署西出張所外壁改修工事

図 面 名
改修特記仕様書 (1)

係
和 田

係 長
市 村

課長補佐
田 中

課 長
松 本

図面番号
A-01

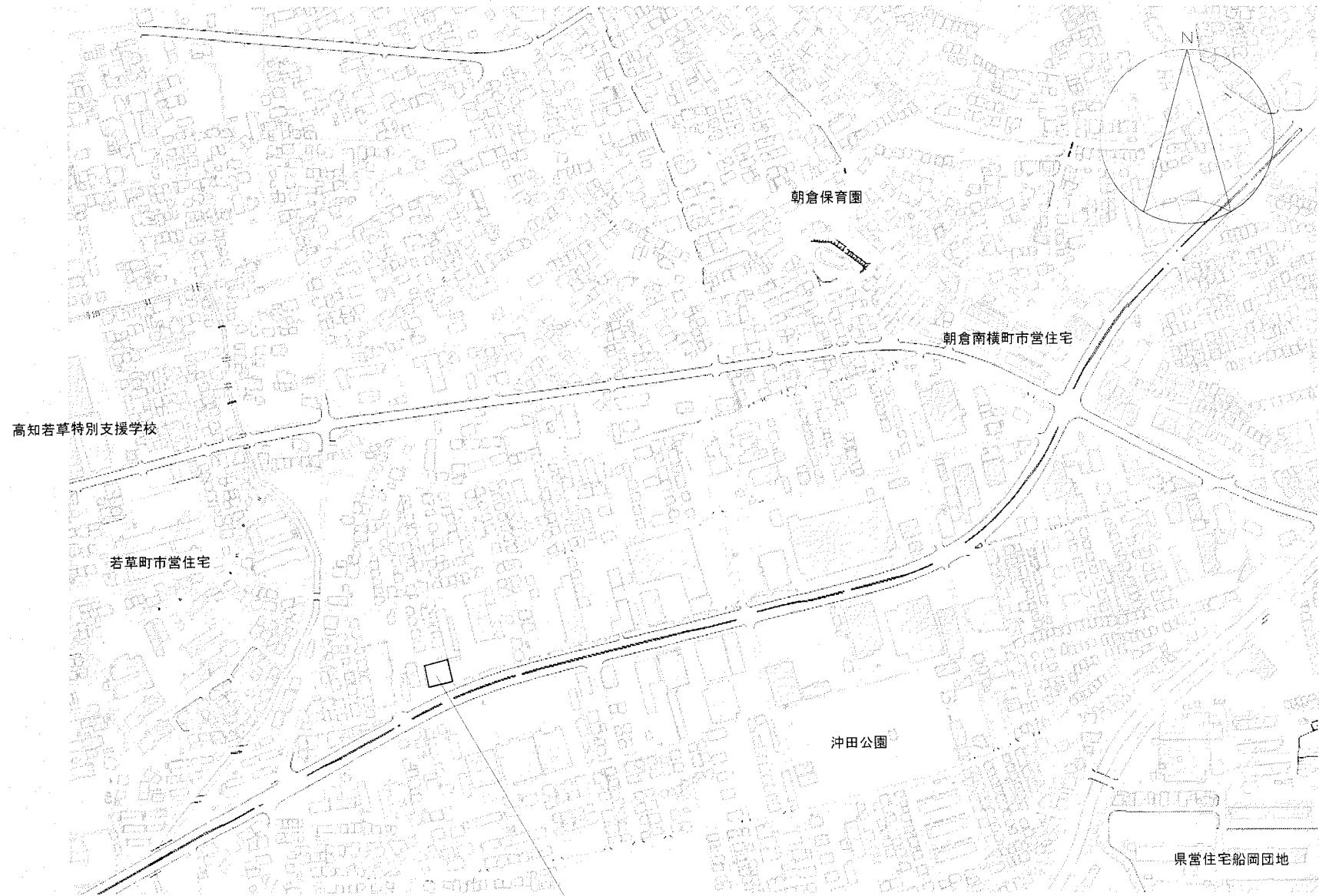
2026.07

縮 尺

作 図
令和8年 7月 日

項 目		特 記 事 項		項 目		特 記 事 項		項 目		特 記 事 項											
26	特別な材料の工法	公共建築工事標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、監督職員の承諾を受けて当該材料製造所の指定する工法による。		3	仮設間仕切り（屋内）	設置箇所 ※ 図示 間仕切り種別 A種 ・ B種 ※ C種 A種、B種の場合 仕上げる材種 ※せっこうボード 厚さ9.5mm ・ 合板(普通合板) 厚さ9.0mm 塗装仕上げ等 ・ 行う ※ 行わない 仮設扉設置箇所 ※ 図示 ・ 仮設扉種別 ・ 合板張り木製扉程度 ・ 図示		[2.3.2][表2.3.1]			・ P0D1 ・ M3D1 ・ M4D1	・ D1-1 ・ D1-2	JIS A 9521に基づく 発泡プラスチック断熱材 種類：※硬質ウレタンフォーム 断熱材2種1号又は2号 ・ 厚さ： ・ mm ・ 図示	・ 高日射 反射率 塗料の 適用	※ 製造所 の指定 による	改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない					
27	風圧力	本工事に使用する材料及び工法は、建築基準法に基づき定まる風圧力に対応したものとし、速度圧を求める場合の風速(Vo)及び地表面粗土区分は、次の数値とする。 風速(Vo)： ※ 38m/sec ・ 36m/sec 地表面粗土区分： ※ Ⅲ ・ Ⅱ		4	監督職員事務所	・ 設ける（ m程度） ※ 設けない		[2.4.1]			立上り部等の防水層撤去 ・ 行う ・ 行わない [表3.1.1] 立上り部等の保護層撤去 ・ 行う ・ 行わない 露出防水層表面の仕上げ塗装除去 ・ 行う ・ 行わない [3.2.6] 脱気装置の種類及び設置数量 ※ 製造所の指定とする 屋根露出防水絶縁断熱工法の場合で、ルーフトレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置 ※ 図示 改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ [3.3.2] ※ 表3.3.8及び表3.3.9による 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※ 表3.3.8及び表3.3.9による 屋根露出防水絶縁工法の材料 ・ 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシート ・ 砂付あなきルーフィング 押え金物の材質及び形状 ※ 図示 ・ アルミニウム製、L-30×15×2.0(mm)程度 [3.3.2]										
28	仕上面の出隅処理	内外部とも仕上出隅で利用者の手の届く範囲は、図示が無くとも原則として全て面取りを施す。 木部(家具を含む) 6mm程度 コンクリート、モルタル部 20mm程度 鉄部、金属部 3mm程度 建具類等、上記により難い場合は、監督職員と協議する。		5	監督職員の備品等	備品等の設置 備品等の種類 机・椅子 書 棚 黒 板 P C 掛 時 計 数 量 組 台 枚 台 個 備品等の種類 温 度 計 ゴ ム 長 靴 雨 が つ ば 保 護 帽 懐 中 電 灯 数 量 個 足 着 個 備品等の種類 衣類ロッカー 冷暖房機器 消 火 器 湯 沸 器 加入電話付属器 数 量 人用 台 個 台 台 備品等の種類 掃 除 具 数 量 個		[2.4.1]			屋内防水 [3.3.3][表3.3.10] 防水層の種類 工 法 種 別 施工箇所 保護層 ・ P1E ・ E-1 ・ P2E ・ E-2 E-1の工程3 ※ 行う（貯水槽、浴室等の常時水に接する部位） ・ 行わない 押え金物の材質及び形状 ※ アルミニウム製、L-30×15×2.0(mm)程度 [3.3.2] 平場の保護コンクリート ※ 80mm以上 こて仕上げの場合 ※ 60mm以上 床タイル張り等仕上げる場合 ※ 60mm以上 コンクリートの仕上りの平たんさ [3.3.5] [表8.1.5] ※ a 種 ・ b 種 ・ c 種										
29	事業損失補償	※現場説明書による。		6	工事用水・電力	構内既存の施設(用水) ○ 利用できる （ ※ 有償 ・ 無償 ） ※ 利用できない 構内既存の施設(電力) ○ 利用できる （ ※ 有償 ・ 無償 ） ※ 利用できない 構内既存の施設を利用できる場合で、無償の場合は、下記a)～c)による。 a) 既存設備の水栓等から直接水を使用する場合は、監督職員と協議する。 b) 既存のコンセントから直接電力を使用する場合は、監督職員と協議する。 c) 工事用電源を既存建築物から分岐する場合は、原則、既設分電盤の共用回路のコンセントからとする。なお、接続する回路の負荷状態等を確認し、既設負荷への波及がないようにする。 また、漏電遮断器付コンセント等を使用し、安全の確保を図る。 構内既存の施設を利用できる場合で、有償の場合は、上記a)～c)に下記d)～e)を加える。 d) 工事用水は、既存設備に量水器を設けて、仮設配管を施し使用するものとする。 e) 工事用電力は、原則、既存設備に電力計を設けて、仮設配電盤を設置し、使用するものとする。 四国電力送配電株式会社などの架空線に防護管の設置が必要な場合は、監督職員と協議する。				防水層の種類別 [3.4.2][表3.4.1～表3.4.3] 工 法 種 別 施工箇所 断熱材 仕上塗料 種類 使用量 備考 ・ M4AS ・ AS-T1 ・ AS-T2 ・ AS-J2 ・ M3AS ・ AS-T3 ・ P0AS ・ AS-T4 ・ AS-J1 ・ AS-J3 ・ M3ASI ・ ASI-T1 ・ M4ASI ・ ASI-J1 ・ P0ASI JIS A 9521に基づく 発泡プラスチック断熱材 種類： ※硬質ウレタンフォーム断熱材 2種1号又は2号 ・ 厚さ： ・ mm ・ 図示 ・ 高日射 反射率 塗料の 適用 ※ 製造所 の指定 による 改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない 防湿層 ・ 設ける ・ 設けない 露出防水層表面の仕上げ塗装除去 ・ 行う ・ 行わない [3.2.6] 改質アスファルトシートの種類及び厚さ [3.4.2] ※ 表3.4.1から表3.4.3による 粘着層付改質アスファルトシート及び部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ [3.4.2] ※ 表3.4.1から表3.4.3による 押え金物の材質及び形状 ※ 図示 ・ アルミニウム製、L-30×15×2.0(mm)程度 [3.4.2] 脱気装置の種類及び設置数量 ※ 製造所の指定とする [3.4.3]											
30	完成時の提出図書	○ 完成図(作成範囲 ・ 配置図 ・ 平面図 ・ 立面図 ・ 断面図 ○ 仕上表) [1.9.1][1.9.2] ・ 完成図(CADデータの提出 ※する(CD-R等) ・ しない) ・ 保全に関する資料(提出部数 ※2部 ・ 部) [1.9.3] 上記のほか、使用材料のメーカー名、品番、色(マンセル値等)をCADデータ等で監督職員に提出する。 ・ 工種別下請負者の一覧表 ○ 施工図、施工計画書 [1.9.2] 提出した施工図及び施工計画書の著作に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に移譲するものとする。		7	仮開い	※ 図示 ・			4	改質アスファルトシート防水	改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ [3.3.2] ※ 表3.3.5及び表3.3.6による 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ [3.3.2] ※ 表3.3.3から表3.3.4までによる 絶縁工法の材料 ・ 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシート ・ 砂付あなきルーフィング 押え金物の材質及び形状 ※ 図示 ・ アルミニウム製、L-30×15×2.0(mm)程度 [3.3.2] 乾式保護材 ・ 業系系パネル （ ・ I 種 ※ II 種 ） ・ 金属複合板 [3.3.5] 製造所 評価名簿による 立上り部への断熱材及び絶縁用シートの設置 [表3.3.4][表3.3.5] ・ 適用する ・ 適用しない 平場の保護コンクリート [3.3.5] こて仕上げの場合 ※ 80mm以上 床タイル張り等仕上げる場合 ※ 60mm以上 コンクリートの仕上りの平たんさ [3.3.5] [表8.1.5] ※ a 種 ・ b 種 ・ c 種 屋上排水溝 ・ 図示 ・ 屋根露出防水 防水層の種類 [3.3.2][表3.3.7～表3.3.9] 工 法 種 別 施工箇所 断熱材 仕上塗料 種類 使用量 備考 ・ M4C ・ C-1 ・ C-2 ・ C-3 ・ C-4 ・ M3D ・ M0D ・ 高日射 反射率 塗料の 適用 ※ 製造所 の指定 による 改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない										
31	完成写真	下表のものを監督職員に提出する。 位 置 分類・規格 撮影枚数 部 数 ・ 各室 手札版(L版) ※2枚 ・ 枚 ※1部 ・ 部 ・ 外部 キヤビネ版 ※4枚 ・ 枚 ※1部 ・ 部 ・ 外部 半切パネル(・木製枠※アルミ枠) ※1枚 ・ 枚 ※1部 ・ 部 ・ スライド ※1部 ・ 部 カラー・電子データ化(CD-R等)し、すべて提出する。 撮影箇所は監督職員と協議する。 上表のほか、監督職員指示の箇所をデジタルカメラにて撮影し、CD-R等にて提出する。 画像形式等 フォーマット：JPEG 画像サイズ：2816×2112ピクセル以上		8	工事用水・電力	※ 図示 ・ ※ 原形の復旧 ・ 良質土にて設計地盤まで盛土整地する。 範囲(図示) 厚さ()		[2.5.1]			防水層の種類別 [3.5.2][表3.5.1～表3.5.3] 工 法 種 別 施工箇所 厚さ(mm) 仕上塗料 種類 使用量 高日射反 射率塗料 の適用 備考 ・ P0S ・ S-F1 ※1.2 ・ S4S ・ S-F2 ※2.0 ・ 1.5 ・ S-M1 ※1.5 ・ S-M2 ※1.5 ・ 2.0 ・ S3S ・ S-F1 ※1.2 ・ S-F2 ※2.0 ・ 1.5 ・ M4S ・ S-M1 ※1.5 ・ S-M2 ※1.5 ・ 2.0 ・ P0SI ・ SI-F1 ※1.2 ・ S3SI ・ SI-F2 ※1.5 ・ S4SI ・ 2.0 ・ M4SI ・ SI-M1 ※1.5 ・ SI-M2 ※1.5 ・ P1S ・ S-C1 ※1.0 断熱工法に用いる断熱材 (SI-F1、SI-F2、SI-M1、SI-M2の場合) 工 法 材 料 厚さ 機械的 JIS A 9521(建築用断熱材)に基づく発泡プラスチック断熱材 固定工法 種類：※硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号 ・ 図示 接着工法 JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材 種類：※硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号 ・ 図示										
32	別途設備工事との 取合い	施工範囲 ・ 貫通孔、開口部の補強 ※ 下表 ・ 図示 ・ 壁、天井の仕上材、下地材の切込み及び下地材の補強 ※ 下表 ・ 図示 ・ 駆動装置が電動による建具類の2次配線及び操作スイッチ ・ 自動閉鎖装置取付け箇所の切込み及び補強 補 強 種 別 内容 貫通孔、開口部の補強 梁 壁 スラブ 壁切込み及び補強 天井切込み及び補強		9	仮設物撤去後の 整地・跡片付け	※ 図示 ・ ※ 原形の復旧 ・ 良質土にて設計地盤まで盛土整地する。 範囲(図示) 厚さ()		[2.5.1]			合成高分子系 ルーフィング シート防水 断熱工法に用いる断熱材 (SI-F1、SI-F2、SI-M1、SI-M2の場合) 工 法 材 料 厚さ 機械的 JIS A 9521(建築用断熱材)に基づく発泡プラスチック断熱材 固定工法 種類：※硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号 ・ 図示 接着工法 JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材 種類：※硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号 ・ 図示										
33	撤去部分	コンクリート、モルタル等の撤去部分の境目は、原則としてダイヤモンドカッター切りとする。							5	合成高分子系 ルーフィング シート防水	断熱工法に用いる断熱材 (SI-F1、SI-F2、SI-M1、SI-M2の場合) 工 法 材 料 厚さ 機械的 JIS A 9521(建築用断熱材)に基づく発泡プラスチック断熱材 固定工法 種類：※硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号 ・ 図示 接着工法 JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材 種類：※硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号 ・ 図示										
34	不当要求等への対応	暴力団又は暴力団関係者からの不当要求又は工事妨害(以下この文において「不当介入」という。)の排除については次による。 a) 受注者は、暴力団又は暴力団関係者からの工事の施工に関して不当介入を受けたときは、その旨を直ちに監督職員に報告し、所轄の警察署に届出なければならない。 b) 受注者は、不当介入による被害を受けたときは、その旨を直ちに監督職員に報告し、所轄の警察署に届出なければならない。 c) 受注者は、監督職員及び所轄警察署と協力して、不当介入の排除処理を講じなければならない。 d) 受注者が、不当介入の報告を怠った場合は、「高知市競争入札指名停止措置要綱」に基づき、指名停止措置を行うものとする。									断熱工法に用いる断熱材 (SI-F1、SI-F2、SI-M1、SI-M2の場合) 工 法 材 料 厚さ 機械的 JIS A 9521(建築用断熱材)に基づく発泡プラスチック断熱材 固定工法 種類：※硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号 ・ 図示 接着工法 JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材 種類：※硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号 ・ 図示										
35	消防計画	工事の着手にあたり、火災等の災害の予防や、使用部分と工事中の部分の安全を確保するため、別契約の関連工事業者と協議の上、「工事中の消防計画書」を作成し、当該施設の防火管理者の承諾を得て届出を行う。									断熱工法に用いる断熱材 (SI-F1、SI-F2、SI-M1、SI-M2の場合) 工 法 材 料 厚さ 機械的 JIS A 9521(建築用断熱材)に基づく発泡プラスチック断熱材 固定工法 種類：※硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号 ・ 図示 接着工法 JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材 種類：※硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号 ・ 図示										
36	工事特性等	受注者は、自ら立案した工事特性、創意工夫、社会性等のそれぞれの評価項目について、実施しようとする場合は、事前に計画内容を所定の様式で監督職員に提出する。 また、実施後、工事完成時までに所定の様式に実施状況の分かる図面や状況写真等を添付して監督職員に提出する。									断熱工法に用いる断熱材 (SI-F1、SI-F2、SI-M1、SI-M2の場合) 工 法 材 料 厚さ 機械的 JIS A 9521(建築用断熱材)に基づく発泡プラスチック断熱材 固定工法 種類：※硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号 ・ 図示 接着工法 JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材 種類：※硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号 ・ 図示										
仮設工事（改修）																					
1	足場その他	内部足場 ※ きゃたつ、足場板等 ・ [2.1.3][2.2.1][表2.2.1] 外部足場 ※ 本足場 ○ 移動式足場 外部足場の養生 ※ 図示 ・ 防護シート ○ メッシュシート ○ 防音シート ・ 防音パネル 材料、撤去材の運搬方法 ・ A 種 ※ B 種 ・ C 種 ・ D 種 ○ E 種 C 種の場合 利用可能なエレベーター(※図示 ・) D 種の場合 利用可能な階段(※図示 ・) ・ 屋上防水作業の端部には、墜落防止手摺等墜落の危険を防止する措置を講ずる。 ○ 高さ1.8m以下の範囲は金網とし、関係者以外が進入できないように施錠すること。 本足場を設ける場合は、公共建築改修工事標準仕様書2.2.1(2)によるほか、足場の組立、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」により行うこと。		1	足場その他	内部足場 ※ きゃたつ、足場板等 ・ [2.1.3][2.2.1][表2.2.1] 外部足場 ※ 本足場 ○ 移動式足場 外部足場の養生 ※ 図示 ・ 防護シート ○ メッシュシート ○ 防音シート ・ 防音パネル 材料、撤去材の運搬方法 ・ A 種 ※ B 種 ・ C 種 ・ D 種 ○ E 種 C 種の場合 利用可能なエレベーター(※図示 ・) D 種の場合 利用可能な階段(※図示 ・) ・ 屋上防水作業の端部には、墜落防止手摺等墜落の危険を防止する措置を講ずる。 ○ 高さ1.8m以下の範囲は金網とし、関係者以外が進入できないように施錠すること。 本足場を設ける場合は、公共建築改修工事標準仕様書2.2.1(2)によるほか、足場の組立、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」により行うこと。		[2.1.3][2.2.1][表2.2.1]			断熱工法に用いる断熱材 (SI-F1、SI-F2、SI-M1、SI-M2の場合) 工 法 材 料 厚さ 機械的 JIS A 9521(建築用断熱材)に基づく発泡プラスチック断熱材 固定工法 種類：※硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号 ・ 図示 接着工法 JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材 種類：※硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号 ・ 図示										
2	養生	○ 既存部分の養生 ※ ビニルシート、合板等 ・ [2.3.1] ・ 既存家具、既存設備等の養生 ※ ビニルシート等 ・ 既存ブラインド、カーテン等の養生、保管場所 ※ 図示 ・ 固定された備品等の移動 ※ 図示 ○ 開口部養生 窓等の破損の危険がある工事を行う場合は、施工を行う周辺及びその下部の窓等には、室内に破損物等が飛散しない様、堅固な養生を行う。									断熱工法に用いる断熱材 (SI-F1、SI-F2、SI-M1、SI-M2の場合) 工 法 材 料 厚さ 機械的 JIS A 9521(建築用断熱材)に基づく発泡プラスチック断熱材 固定工法 種類：※硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号 ・ 図示 接着工法 JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材 種類：※硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号 ・ 図示										
				高 知 市 都 市 建 設 部 公 共 建 築 課				工 事 名				係		係 長		課 長 補 佐		課 長		図 面 番 号	
				高 知 市 都 市 建 設 部 公 共 建 築 課				高知市中央消防署西出張所外壁改修工事				和 田		市 田		山 田		木 村		A-02	
								図 面 名				改修特記仕様書（2）		2026.07		縮 尺		作 図		令和8年 7 月 日	

項 目		特 記 事 項		項 目		特 記 事 項		項 目		特 記 事 項																																																																																					
6	塗膜防水	ルーフィングトシートの種類 ※表3.5.1～表3.5.3までによる 立上り部等の防水層撤去 ・行う ・行わない [表3.1.1] 立上り部等の保護層撤去 ・行う ・行わない POS工法及びPISI工法(機械的固定工法)の立上り部等の既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした場合の既存防水層の処理 ※3.2.6(4)(ウ)(g)による 固定金具の材質及び形状 [3.5.2] 材質 ※防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板またはそれらの鋼板の片面及び両面に樹脂を積層加工したもの 厚さ(mm) ※0.4以上 S-M1及びS-M2の絶縁用シート及び可塑性移行防止用シートの材質 [3.5.2] ※発泡ポリエチレンシート 脱気装置の種類及び設置数量 ※製造所の仕様による [3.5.3] 歩行の仕様 [表3.5.1] ※非歩行用 ・軽歩行用 (施工箇所:) SI-M1及びSI-M2の防湿用フィルムの設置 ※設けない ・設ける [表3.5.2] プレキャストコンクリート下地の目地処理(接着工法の場合) [3.5.4] ・行う (・図示) ・行わない S-F1及びFSI-F1のプレキャストコンクリート下地の入隅部増張り [3.5.4] ・行う (・図示) ・行わない 一般部のルーフィングシート of の張付けで機械的固定工法の場合 建築基準法に基づく風圧力の (※1 ・1.15 ・1.3) 倍の風圧力に対応した工法		外壁改修工事(共通事項)		可とう性エポキシ樹脂 [4.2.4] JIS A 6024による。 <table><tr><th>比重</th><th>押出し性(秒)</th><th>スランプ(Xmm)</th><th>質量変化率(%)</th><th>引張り強さ(MPa)</th><th>破断時伸び(%)</th><th>引張り接着性</th></tr><tr><td>表示値±0.10</td><td>60以下</td><td>3.0以下</td><td>5.0以下</td><td>標準 1.0以上 低温 1.0以上 加熱劣化1.0以上</td><td>標準 30.0以上 低温 30.0以上 加熱劣化30.0以上</td><td>最大引張強さ1.0MPa以上 破断時の伸び10.0%以上</td></tr></table> 1)均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2)対象とする被着体を侵さず、かつ周囲を汚損しないこと。 3)常温常湿(温度20±15℃、湿度65±20%)において製造所の指定する期間又は製造後6ヶ月保存した後であっても、品質・性能が上記の各項目に適合していること。 バテ状エポキシ樹脂 [4.2.4] JIS A 6024による。 <table><tr><th>初期硬化性(XMPa)</th><th>接着強さ(MPa)</th><th>圧縮強さ(MPa)</th><th>曲げ強さ(MPa)</th><th>硬化収縮率(%)</th></tr><tr><td>標準2.0以上</td><td>標準6.0以上</td><td>50.0以上</td><td>30.0以上</td><td>3.0以下</td></tr></table> 1)均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2)対象とする被着体を侵さず、かつ周囲を汚損しないこと。 3)常温常湿(温度20±15℃、湿度65±20%)において製造所の指定する期間又は製造後6ヶ月保存した後であっても、品質・性能が上記の各項目に適合していること。 4)試験方法は、JIS A 6024(建築補修用注入エポキシ樹脂)に準じる。 エポキシ樹脂モルタル [4.2.4] JIS A 6024による。 <table><tr><th>だれ</th><th>接着強さ(MPa)</th><th>圧縮強さ(MPa)</th><th>曲げ強さ(MPa)</th></tr><tr><td>形状に異常がなく、 だれが生じないこと</td><td>1.0以上</td><td>20.0以上</td><td>10.0以上 (3日後の値)</td></tr></table> 1)こて塗りが容易で、かつ、硬化後の仕上がりが良好であること。 2)均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 3)「労働安全衛生法」に基づく「有機溶剤中毒予防規則」に規定された第一種有機溶剤を使用しないこと。 4)常温常湿(温度20±15℃、湿度65±20%)において製造所の指定する期間又は製造後6ヶ月間保存した後であっても、品質・性能が上記の各項目の規定に適合していること。 ポリマーセメントモルタル [4.2.4] <table><tr><th>だれ</th><th>曲げ強さ(N/mm2)</th><th>圧縮強さ(N/mm2)</th><th>接着強さ(N/mm2)</th></tr><tr><td>下がり量 5mm以内</td><td>表面状態 ひびわれの発生がないこと</td><td>6.0以上</td><td>20.0以上</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>標準条件 1.0以上 湿潤時 0.8以上 低温時 0.5以上</td></tr></table> 1)透水性 裏面のぬれ、水滴の付着がないこと。 2)均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 3)ポリマーセメントモルタルに用いる高分子エマルションは、常温常湿において製造後6ヶ月保存しても変質しないこと。 ポリマーセメントスラリー [4.3.5] <table><tr><th>拡がり速さ(cm/s)</th><th>長さ変化率(収縮)(%)</th><th>引張接着性(N/mm2)</th><th>曲げ強度(材齢28日)(N/mm2)</th><th>吸水率(72時間)(%)</th><th>劣化曲げ強さ(N/mm2)</th></tr><tr><td>3以上</td><td>3以下</td><td>0.49以上</td><td>4.9以上</td><td>15以下</td><td>4.9以上</td></tr></table> 1)保水係数 0.35～0.55 2)粘潤係数 0.50～1.00 3)均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 4)ポリマーセメントスラリー用の材料は、常温常湿において製造後6ヶ月保存しても変質しないこと。 既調合モルタル [4.3.10] モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和材等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。 <table><tr><th>保水率(%)</th><th>単位容積質量(kg/L)</th><th>接着強さ標準養生 温冷繰返し後</th><th>長さ変化率(%)</th><th>曲げ強さ(N/mm2)</th></tr><tr><td>70.0以上</td><td>1.8以上</td><td>0.6N/mm2以上</td><td>0.4N/mm2以上</td><td>0.2以下 4.0以上</td></tr></table>		比重	押出し性(秒)	スランプ(Xmm)	質量変化率(%)	引張り強さ(MPa)	破断時伸び(%)	引張り接着性	表示値±0.10	60以下	3.0以下	5.0以下	標準 1.0以上 低温 1.0以上 加熱劣化1.0以上	標準 30.0以上 低温 30.0以上 加熱劣化30.0以上	最大引張強さ1.0MPa以上 破断時の伸び10.0%以上	初期硬化性(XMPa)	接着強さ(MPa)	圧縮強さ(MPa)	曲げ強さ(MPa)	硬化収縮率(%)	標準2.0以上	標準6.0以上	50.0以上	30.0以上	3.0以下	だれ	接着強さ(MPa)	圧縮強さ(MPa)	曲げ強さ(MPa)	形状に異常がなく、 だれが生じないこと	1.0以上	20.0以上	10.0以上 (3日後の値)	だれ	曲げ強さ(N/mm2)	圧縮強さ(N/mm2)	接着強さ(N/mm2)	下がり量 5mm以内	表面状態 ひびわれの発生がないこと	6.0以上	20.0以上				標準条件 1.0以上 湿潤時 0.8以上 低温時 0.5以上	拡がり速さ(cm/s)	長さ変化率(収縮)(%)	引張接着性(N/mm2)	曲げ強度(材齢28日)(N/mm2)	吸水率(72時間)(%)	劣化曲げ強さ(N/mm2)	3以上	3以下	0.49以上	4.9以上	15以下	4.9以上	保水率(%)	単位容積質量(kg/L)	接着強さ標準養生 温冷繰返し後	長さ変化率(%)	曲げ強さ(N/mm2)	70.0以上	1.8以上	0.6N/mm2以上	0.4N/mm2以上	0.2以下 4.0以上	外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ		1 ひび割れ部改修		※樹脂注入工法 [4.2.5(1)～(5)][4.3.6] <table><tr><th>種 類</th><th>ひび割れ幅(mm)</th><th>注入口間隔(mm)</th><th>注入量(mL/m)</th></tr><tr><td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上1.0以下</td><td>※ 200～300</td><td>※製造所の仕様 ・130</td></tr><tr><td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上0.3未満</td><td>・ 50～100</td><td>※40</td></tr><tr><td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下</td><td>※ 100～200 ・ 150～250</td><td>※70 ※130</td></tr></table> コア抜取り検査 ※行わない ・行う(長さ500mごと及びその端数につき1個。補修方法は図示による) ・Uカットシール材充填工法 [4.2.6][4.3.7] 充填材料 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・行わない ・可とう性エポキシ樹脂 ・シール工法 [4.2.7][4.3.8] ・バテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂 ※充填工法 [4.2.8(3)(4)][4.3.9] ※エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル ・モルタル塗替え工法 [4.3.10] 仕上げ厚又は全塗り厚が25mmを超える場合の処置 ※ステンレス製アンカーピン縦横φ200打込、ステンレス製ラス等張り ・図示		種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0以下	※ 200～300	※製造所の仕様 ・130	・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・ 50～100	※40	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下	※ 100～200 ・ 150～250	※70 ※130
		比重	押出し性(秒)	スランプ(Xmm)	質量変化率(%)	引張り強さ(MPa)	破断時伸び(%)	引張り接着性																																																																																							
		表示値±0.10	60以下	3.0以下	5.0以下	標準 1.0以上 低温 1.0以上 加熱劣化1.0以上	標準 30.0以上 低温 30.0以上 加熱劣化30.0以上	最大引張強さ1.0MPa以上 破断時の伸び10.0%以上																																																																																							
		初期硬化性(XMPa)	接着強さ(MPa)	圧縮強さ(MPa)	曲げ強さ(MPa)	硬化収縮率(%)																																																																																									
標準2.0以上	標準6.0以上	50.0以上	30.0以上	3.0以下																																																																																											
だれ	接着強さ(MPa)	圧縮強さ(MPa)	曲げ強さ(MPa)																																																																																												
形状に異常がなく、 だれが生じないこと	1.0以上	20.0以上	10.0以上 (3日後の値)																																																																																												
だれ	曲げ強さ(N/mm2)	圧縮強さ(N/mm2)	接着強さ(N/mm2)																																																																																												
下がり量 5mm以内	表面状態 ひびわれの発生がないこと	6.0以上	20.0以上																																																																																												
			標準条件 1.0以上 湿潤時 0.8以上 低温時 0.5以上																																																																																												
拡がり速さ(cm/s)	長さ変化率(収縮)(%)	引張接着性(N/mm2)	曲げ強度(材齢28日)(N/mm2)	吸水率(72時間)(%)	劣化曲げ強さ(N/mm2)																																																																																										
3以上	3以下	0.49以上	4.9以上	15以下	4.9以上																																																																																										
保水率(%)	単位容積質量(kg/L)	接着強さ標準養生 温冷繰返し後	長さ変化率(%)	曲げ強さ(N/mm2)																																																																																											
70.0以上	1.8以上	0.6N/mm2以上	0.4N/mm2以上	0.2以下 4.0以上																																																																																											
種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)																																																																																												
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0以下	※ 200～300	※製造所の仕様 ・130																																																																																												
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・ 50～100	※40																																																																																												
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下	※ 100～200 ・ 150～250	※70 ※130																																																																																												
7	FRP防水	ガラスマット ・1層タイプ ・2層タイプ 表面の仕上げ ・平滑 ・粗面 押え金物の材質 ※アルミニウム 押え金物の寸法 ※図示		絶縁工法における脱気装置の種類及び設置数量 ※主材料の製造所の仕様による ・ ウレタン防水材 ※化学物質MOCAを含有しないもの PIY工法又はP2Y工法の保護層の仕様 ※図示		外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ		2 欠損部改修		※樹脂注入工法 [4.2.5(1)～(5)][4.3.6] <table><tr><th>種 類</th><th>ひび割れ幅(mm)</th><th>注入口間隔(mm)</th><th>注入量(mL/m)</th></tr><tr><td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上1.0以下</td><td>※ 200～300</td><td>※製造所の仕様 ・130</td></tr><tr><td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上0.3未満</td><td>・ 50～100</td><td>※40</td></tr><tr><td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下</td><td>※ 100～200 ・ 150～250</td><td>※70 ※130</td></tr></table> コア抜取り検査 ※行わない ・行う(長さ500mごと及びその端数につき1個。補修方法は図示による) ・Uカットシール材充填工法 [4.2.6][4.3.7] 充填材料 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・行わない ・可とう性エポキシ樹脂 ・シール工法 [4.2.7][4.3.8] ・バテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂 ※充填工法 [4.2.8(3)(4)][4.3.9] ※エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル ・モルタル塗替え工法 [4.3.10] 仕上げ厚又は全塗り厚が25mmを超える場合の処置 ※ステンレス製アンカーピン縦横φ200打込、ステンレス製ラス等張り ・図示		種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0以下	※ 200～300	※製造所の仕様 ・130	・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・ 50～100	※40	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下	※ 100～200 ・ 150～250	※70 ※130																																																																				
		種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)																																																																																										
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0以下	※ 200～300	※製造所の仕様 ・130																																																																																												
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・ 50～100	※40																																																																																												
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下	※ 100～200 ・ 150～250	※70 ※130																																																																																												
⑧	シーリング	シーリング改修工法の種類 ・シーリング充填工法 ・ブリッジ工法 ・エッジング材張り		[3.1.4][3.7.4～3.7.7][表3.1.2] ○シーリング再充填工法 ・拡張シーリング再充填工法 [3.7.7] 適用する		外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ		3 浮き部改修		[4.2.5(1)～(5)][4.3.6] <table><tr><th>種 類</th><th>ひび割れ幅(mm)</th><th>注入口間隔(mm)</th><th>注入量(mL/m)</th></tr><tr><td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上1.0以下</td><td>※ 200～300</td><td>※製造所の仕様 ・130</td></tr><tr><td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上0.3未満</td><td>・ 50～100</td><td>※40</td></tr><tr><td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下</td><td>※ 100～200 ・ 150～250</td><td>※70 ※130</td></tr></table> コア抜取り検査 ※行わない ・行う(長さ500mごと及びその端数につき1個。補修方法は図示による) ・Uカットシール材充填工法 [4.2.6][4.3.7] 充填材料 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・行わない ・可とう性エポキシ樹脂 ・シール工法 [4.2.7][4.3.8] ・バテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂 ※充填工法 [4.2.8(3)(4)][4.3.9] ※エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル ・モルタル塗替え工法 [4.3.10] 仕上げ厚又は全塗り厚が25mmを超える場合の処置 ※ステンレス製アンカーピン縦横φ200打込、ステンレス製ラス等張り ・図示		種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0以下	※ 200～300	※製造所の仕様 ・130	・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・ 50～100	※40	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下	※ 100～200 ・ 150～250	※70 ※130																																																																				
		種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)																																																																																										
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0以下	※ 200～300	※製造所の仕様 ・130																																																																																												
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・ 50～100	※40																																																																																												
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下	※ 100～200 ・ 150～250	※70 ※130																																																																																												
⑨	とい	シーリング材の種類、施工箇所 ※下表による(下表以外は表3.7.1による) <table><tr><th>種類(記号)</th><th>主成分による区分</th><th>施 工 箇 所</th></tr><tr><td>・SR-1</td><td>シリコーン系</td><td></td></tr><tr><td>・SR-2</td><td></td><td></td></tr><tr><td>○MS-2</td><td>変成シリコーン系</td><td>建具廻り、ガラス板張り取合い</td></tr><tr><td>・PS-2</td><td>ポリサルファイド系</td><td></td></tr><tr><td>○PU-2</td><td>ポリウレタン系</td><td>上記以外</td></tr></table> 仕上げを行わない箇所 () [表3.7.1] シーリング材の目地寸法 [3.7.3] <table><tr><th>箇所</th><th>打継ぎ/ひび割れ誘発目地</th><th>ガラス回りの目地</th><th>左記以外の目地</th></tr><tr><td>幅(mm)</td><td>※ 20以上</td><td>※幅及び深さ5以上</td><td>※ 10以上</td></tr><tr><td>深さ(mm)</td><td>※ 10以上</td><td>[5.13.3]による場合を除く</td><td>※ 10以上</td></tr></table> 接着性試験 [3.7.8] ※ 簡易接着性試験 ・引張接着性試験		種類(記号)	主成分による区分	施 工 箇 所	・SR-1	シリコーン系		・SR-2			○MS-2	変成シリコーン系	建具廻り、ガラス板張り取合い	・PS-2	ポリサルファイド系		○PU-2	ポリウレタン系	上記以外	箇所	打継ぎ/ひび割れ誘発目地	ガラス回りの目地	左記以外の目地	幅(mm)	※ 20以上	※幅及び深さ5以上	※ 10以上	深さ(mm)	※ 10以上	[5.13.3]による場合を除く	※ 10以上	外壁改修工事 コンクリート打放し仕上げ		① ひび割れ部改修		外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ		1 ひび割れ部改修		[4.2.5(1)～(5)][4.3.6] <table><tr><th>種 類</th><th>ひび割れ幅(mm)</th><th>注入口間隔(mm)</th><th>注入量(mL/m)</th></tr><tr><td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上1.0以下</td><td>※ 200～300</td><td>※製造所の仕様 ・130</td></tr><tr><td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上0.3未満</td><td>・ 50～100</td><td>※40</td></tr><tr><td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下</td><td>・ 100～200 ・ 150～250</td><td>※70 ※130</td></tr></table> コア抜取り検査 ※行わない ・行う(長さ500mごと及びその端数につき1個。補修方法は図示による) ・Uカットシール材充填工法 [4.2.6][4.3.7] 充填材料 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・行わない ・可とう性エポキシ樹脂 ・シール工法 [4.2.7][4.3.8] ・バテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂 ※充填工法 [4.2.8(3)(4)][4.3.9] ※エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル		種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0以下	※ 200～300	※製造所の仕様 ・130	・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・ 50～100	※40	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下	・ 100～200 ・ 150～250	※70 ※130																																				
		種類(記号)	主成分による区分	施 工 箇 所																																																																																											
・SR-1	シリコーン系																																																																																														
・SR-2																																																																																															
○MS-2	変成シリコーン系	建具廻り、ガラス板張り取合い																																																																																													
・PS-2	ポリサルファイド系																																																																																														
○PU-2	ポリウレタン系	上記以外																																																																																													
箇所	打継ぎ/ひび割れ誘発目地	ガラス回りの目地	左記以外の目地																																																																																												
幅(mm)	※ 20以上	※幅及び深さ5以上	※ 10以上																																																																																												
深さ(mm)	※ 10以上	[5.13.3]による場合を除く	※ 10以上																																																																																												
種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)																																																																																												
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0以下	※ 200～300	※製造所の仕様 ・130																																																																																												
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・ 50～100	※40																																																																																												
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下	・ 100～200 ・ 150～250	※70 ※130																																																																																												
10	アルミニウム製笠木	材料 [3.8.2][表3.8.1] <table><tr><th>材 種</th><th>寸 法</th><th>施 工 箇 所</th></tr><tr><td>・硬質ポリ塩化ビニル管(VP)</td><td></td><td>※たてどい</td></tr><tr><td>○硬質ポリ塩化ビニル管カラー(カラーVP)</td><td>φ100</td><td>※たてどい</td></tr><tr><td>・硬質塩化ビニル雨どい</td><td></td><td>※軒どい ・たてどい</td></tr></table> とい受金物及び足金物の材種、形状及び取付け間隔 [3.8.2] 材種: ※ステンレス製 ・溶融亜鉛めっき その他: ※表3.8.2による 防露材のホルムアルデヒド放出量 ※F☆☆☆☆ 既存のといその他の撤去 ※図示 降雨等に対する養生方法 ※監督職員と協議による ・図示 鋼管製といの防露巻き ・表3.8.4による たてどい受金物の取付け ・図示 ○表3.8.2による ルーフトレンの取付け ・水はけがよく、床面より下げ、周囲の隙間にモルタルを充填する。		材 種	寸 法	施 工 箇 所	・硬質ポリ塩化ビニル管(VP)		※たてどい	○硬質ポリ塩化ビニル管カラー(カラーVP)	φ100	※たてどい	・硬質塩化ビニル雨どい		※軒どい ・たてどい	[3.9.2][表3.9.1] 種類 ・オープン形式 (・押出250形 ・押出300形 ・押出350形) ・板材折曲げ形 (・オープン形式 ・シール形式) 本体幅()mm 板厚(※2.0)mm 表面処理 種別 表5.2.2による() 種 色合い等 ※標準色 既存の笠木等の撤去 ・行う(範囲 ※図示) ・行わない ・一時取外し再取付け[3.9.3] 新規アルミニウム製笠木の下地の補修工法 ※図示 板材折曲げ形笠木の取付方法 ※図示 笠木の固定金具の固定工法 建築基準法に基づく風圧力の (※1 ・1.15 ・1.3) 倍の風圧力に対応した工法		外壁改修工事 コンクリート打放し仕上げ		② 欠損部改修		外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ		2 欠損部改修		[4.2.5(1)～(5)][4.3.6] <table><tr><th>種 類</th><th>ひび割れ幅(mm)</th><th>注入口間隔(mm)</th><th>注入量(mL/m)</th></tr><tr><td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上1.0未満</td><td>※ 200～300</td><td>※製造所の仕様 ・130</td></tr><tr><td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上0.3未満</td><td>・ 50～100</td><td>※40</td></tr><tr><td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下</td><td>・ 100～200 ・ 150～250</td><td>※70 ※130</td></tr></table> コア抜取り検査 ※行わない ・行う(長さ500mごと及びその端数につき1個。補修方法は図示による) ・Uカットシール材充填工法 [4.2.6][4.3.7] 充填材料 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・行わない ・可とう性エポキシ樹脂 ・シール工法 [4.2.7][4.3.8] ・バテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂 ※充填工法 [4.2.8(3)(4)][4.3.9] ※エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル		種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※ 200～300	※製造所の仕様 ・130	・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・ 50～100	※40	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下	・ 100～200 ・ 150～250	※70 ※130																																																				
		材 種	寸 法	施 工 箇 所																																																																																											
・硬質ポリ塩化ビニル管(VP)		※たてどい																																																																																													
○硬質ポリ塩化ビニル管カラー(カラーVP)	φ100	※たてどい																																																																																													
・硬質塩化ビニル雨どい		※軒どい ・たてどい																																																																																													
種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)																																																																																												
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※ 200～300	※製造所の仕様 ・130																																																																																												
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・ 50～100	※40																																																																																												
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下	・ 100～200 ・ 150～250	※70 ※130																																																																																												
11	保証書 (シーリング除く)	受注者、施工者、材料製造所連名による 10 年保証(完成届提出日より15日後から)		外壁改修工事 コンクリート打放し仕上げ		① ひび割れ部改修		外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ		2 欠損部改修		[4.2.5(1)～(5)][4.3.6] <table><tr><th>種 類</th><th>ひび割れ幅(mm)</th><th>注入口間隔(mm)</th><th>注入量(mL/m)</th></tr><tr><td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上1.0未満</td><td>※ 200～300</td><td>※製造所の仕様 ・130</td></tr><tr><td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上0.3未満</td><td>・ 50～100</td><td>※40</td></tr><tr><td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下</td><td>・ 100～200 ・ 150～250</td><td>※70 ※130</td></tr></table> コア抜取り検査 ※行わない ・行う(長さ500mごと及びその端数につき1個。補修方法は図示による) ・Uカットシール材充填工法 [4.2.6][4.3.7] 充填材料 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・行わない ・可とう性エポキシ樹脂 ・シール工法 [4.2.7][4.3.8] ・バテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂 ※充填工法 [4.2.8(3)(4)][4.3.9] ※エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル		種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※ 200～300	※製造所の仕様 ・130	・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・ 50～100	※40	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下	・ 100～200 ・ 150～250	※70 ※130	外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ		1 ひび割れ部改修		外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ		2 欠損部改修		[4.2.5(1)～(5)][4.3.6] <table><tr><th>種 類</th><th>ひび割れ幅(mm)</th><th>注入口間隔(mm)</th><th>注入量(mL/m)</th></tr><tr><td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上1.0未満</td><td>※ 200～300</td><td>※製造所の仕様 ・130</td></tr><tr><td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上0.3未満</td><td>・ 50～100</td><td>※40</td></tr><tr><td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下</td><td>・ 100～200 ・ 150～250</td><td>※70 ※130</td></tr></table> コア抜取り検査 ※行わない ・行う(長さ500mごと及びその端数につき1個。補修方法は図示による) ・Uカットシール材充填工法 [4.2.6][4.3.7] 充填材料 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・行わない ・可とう性エポキシ樹脂 ・シール工法 [4.2.7][4.3.8] ・バテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂 ※充填工法 [4.2.8(3)(4)][4.3.9] ※エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル		種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※ 200～300	※製造所の仕様 ・130	・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・ 50～100	※40	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下	・ 100～200 ・ 150～250	※70 ※130																																								
		種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)																																																																																										
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※ 200～300	※製造所の仕様 ・130																																																																																												
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・ 50～100	※40																																																																																												
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下	・ 100～200 ・ 150～250	※70 ※130																																																																																												
種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)																																																																																												
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※ 200～300	※製造所の仕様 ・130																																																																																												
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・ 50～100	※40																																																																																												
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下	・ 100～200 ・ 150～250	※70 ※130																																																																																												
12	高日射反射率塗料塗り	JIS K 5675(屋根用高日射反射率塗料)に適合するもの、または、グリーン購入法の高日射反射率防水に適合する保護塗料とする。		外壁改修工事 コンクリート打放し仕上げ		① ひび割れ部改修		外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ		2 欠損部改修		[4.2.5(1)～(5)][4.3.6] <table><tr><th>種 類</th><th>ひび割れ幅(mm)</th><th>注入口間隔(mm)</th><th>注入量(mL/m)</th></tr><tr><td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上1.0未満</td><td>※ 200～300</td><td>※製造所の仕様 ・130</td></tr><tr><td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上0.3未満</td><td>・ 50～100</td><td>※40</td></tr><tr><td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下</td><td>・ 100～200 ・ 150～250</td><td>※70 ※130</td></tr></table> コア抜取り検査 ※行わない ・行う(長さ500mごと及びその端数につき1個。補修方法は図示による) ・Uカットシール材充填工法 [4.2.6][4.3.7] 充填材料 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・行わない ・可とう性エポキシ樹脂 ・シール工法 [4.2.7][4.3.8] ・バテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂 ※充填工法 [4.2.8(3)(4)][4.3.9] ※エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル		種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※ 200～300	※製造所の仕様 ・130	・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・ 50～100	※40	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下	・ 100～200 ・ 150～250	※70 ※130	外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ		1 ひび割れ部改修		外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ		2 欠損部改修		[4.2.5(1)～(5)][4.3.6] <table><tr><th>種 類</th><th>ひび割れ幅(mm)</th><th>注入口間隔(mm)</th><th>注入量(mL/m)</th></tr><tr><td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上1.0未満</td><td>※ 200～300</td><td>※製造所の仕様 ・130</td></tr><tr><td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上0.3未満</td><td>・ 50～100</td><td>※40</td></tr><tr><td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下</td><td>・ 100～200 ・ 150～250</td><td>※70 ※130</td></tr></table> コア抜取り検査 ※行わない ・行う(長さ500mごと及びその端数につき1個。補修方法は図示による) ・Uカットシール材充填工法 [4.2.6][4.3.7] 充填材料 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・行わない ・可とう性エポキシ樹脂 ・シール工法 [4.2.7][4.3.8] ・バテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂 ※充填工法 [4.2.8(3)(4)][4.3.9] ※エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル		種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※ 200～300	※製造所の仕様 ・130	・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・ 50～100	※40	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下	・ 100～200 ・ 150～250	※70 ※130																																								
		種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)																																																																																										
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※ 200～300	※製造所の仕様 ・130																																																																																												
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・ 50～100	※40																																																																																												
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下	・ 100～200 ・ 150～250	※70 ※130																																																																																												
種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)																																																																																												
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※ 200～300	※製造所の仕様 ・130																																																																																												
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・ 50～100	※40																																																																																												
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下	・ 100～200 ・ 150～250	※70 ※130																																																																																												
				外壁改修工事 コンクリート打放し仕上げ		① ひび割れ部改修		外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ		2 欠損部改修		[4.2.5(1)～(5)][4.3.6] <table><tr><th>種 類</th><th>ひび割れ幅(mm)</th><th>注入口間隔(mm)</th><th>注入量(mL/m)</th></tr><tr><td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上1.0未満</td><td>※ 200～300</td><td>※製造所の仕様 ・130</td></tr><tr><td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上0.3未満</td><td>・ 50～100</td><td>※40</td></tr><tr><td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下</td><td>・ 100～200 ・ 150～250</td><td>※70 ※130</td></tr></table> コア抜取り検査 ※行わない ・行う(長さ500mごと及びその端数につき1個。補修方法は図示による) ・Uカットシール材充填工法 [4.2.6][4.3.7] 充填材料 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・行わない ・可とう性エポキシ樹脂 ・シール工法 [4.2.7][4.3.8] ・バテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂 ※充填工法 [4.2.8(3)(4)][4.3.9] ※エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル		種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※ 200～300	※製造所の仕様 ・130	・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・ 50～100	※40	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下	・ 100～200 ・ 150～250	※70 ※130	外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ		1 ひび割れ部改修		外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ		2 欠損部改修		[4.2.5(1)～(5)][4.3.6] <table><tr><th>種 類</th><th>ひび割れ幅(mm)</th><th>注入口間隔(mm)</th><th>注入量(mL/m)</th></tr><tr><td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上1.0未満</td><td>※ 200～300</td><td>※製造所の仕様 ・130</td></tr><tr><td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上0.3未満</td><td>・ 50～100</td><td>※40</td></tr><tr><td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下</td><td>・ 100～200 ・ 150～250</td><td>※70 ※130</td></tr></table> コア抜取り検査 ※行わない ・行う(長さ500mごと及びその端数につき1個。補修方法は図示による) ・Uカットシール材充填工法 [4.2.6][4.3.7] 充填材料 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・行わない ・可とう性エポキシ樹脂 ・シール工法 [4.2.7][4.3.8] ・バテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂 ※充填工法 [4.2.8(3)(4)][4.3.9] ※エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル		種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※ 200～300	※製造所の仕様 ・130	・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・ 50～100	※40	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下	・ 100～200 ・ 150～250	※70 ※130																																								
種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)																																																																																												
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※ 200～300	※製造所の仕様 ・130																																																																																												
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・ 50～100	※40																																																																																												
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下	・ 100～200 ・ 150～250	※70 ※130																																																																																												
種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)																																																																																												
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※ 200～300	※製造所の仕様 ・130																																																																																												
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・ 50～100	※40																																																																																												
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下	・ 100～200 ・ 150～250	※70 ※130																																																																																												
				外壁改修工事 コンクリート打放し仕上げ		① ひび割れ部改修		外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ		2 欠損部改修		[4.2.5(1)～(5)][4.3.6] <table><tr><th>種 類</th><th>ひび割れ幅(mm)</th><th>注入口間隔(mm)</th><th>注入量(mL/m)</th></tr><tr><td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上1.0未満</td><td>※ 200～300</td><td>※製造所の仕様 ・130</td></tr><tr><td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上0.3未満</td><td>・ 50～100</td><td>※40</td></tr><tr><td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下</td><td>・ 100～200 ・ 150～250</td><td>※70 ※130</td></tr></table> コア抜取り検査 ※行わない ・行う(長さ500mごと及びその端数につき1個。補修方法は図示による) ・Uカットシール材充填工法 [4.2.6][4.3.7] 充填材料 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・行わない ・可とう性エポキシ樹脂 ・シール工法 [4.2.7][4.3.8] ・バテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂 ※充填工法 [4.2.8(3)(4)][4.3.9] ※エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル		種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※ 200～300	※製造所の仕様 ・130	・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・ 50～100	※40	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下	・ 100～200 ・ 150～250	※70 ※130	外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ		1 ひび割れ部改修		外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ		2 欠損部改修		[4.2.5(1)～(5)][4.3.6] <table><tr><th>種 類</th><th>ひび割れ幅(mm)</th><th>注入口間隔(mm)</th><th>注入量(mL/m)</th></tr><tr><td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上1.0未満</td><td>※ 200～300</td><td>※製造所の仕様 ・130</td></tr><tr><td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上0.3未満</td><td>・ 50～100</td><td>※40</td></tr><tr><td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下</td><td>・ 100～200 ・ 150～250</td><td>※70 ※130</td></tr></table> コア抜取り検査 ※行わない ・行う(長さ500mごと及びその端数につき1個。補修方法は図示による) ・Uカットシール材充填工法 [4.2.6][4.3.7] 充填材料 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・行わない ・可とう性エポキシ樹脂 ・シール工法 [4.2.7][4.3.8] ・バテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂 ※充填工法 [4.2.8(3)(4)][4.3.9] ※エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル		種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※ 200～300	※製造所の仕様 ・130	・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・ 50～100	※40	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下	・ 100～200 ・ 150～250	※70 ※130																																								
種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)																																																																																												
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※ 200～300	※製造所の仕様 ・130																																																																																												
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・ 50～100	※40																																																																																												
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下	・ 100～200 ・ 150～250	※70 ※130																																																																																												
種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)																																																																																												
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※ 200～300	※製造所の仕様 ・130																																																																																												
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・ 50～100	※40																																																																																												
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下	・ 100～200 ・ 150～250	※70 ※130																																																																																												
				外壁改修工事 コンクリート打放し仕上げ		① ひび割れ部改修		外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ		2 欠損部改修		[4.2.5(1)～(5)][4.3.6] <table><tr><th>種 類</th><th>ひび割れ幅(mm)</th><th>注入口間隔(mm)</th><th>注入量(mL/m)</th></tr><tr><td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上1.0未満</td><td>※ 200～300</td><td>※製造所の仕様 ・130</td></tr><tr><td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上0.3未満</td><td>・ 50～100</td><td>※40</td></tr><tr><td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下</td><td>・ 100～200 ・ 150～250</td><td>※70 ※130</td></tr></table> コア抜取り検査 ※行わない ・行う(長さ500mごと及びその端数につき1個。補修方法は図示による) ・Uカットシール材充填工法 [4.2.6][4.3.7] 充填材料 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・行わない ・可とう性エポキシ樹脂 ・シール工法 [4.2.7][4.3.8] ・バテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂 ※充填工法 [4.2.8(3)(4)][4.3.9] ※エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル		種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※ 200～300	※製造所の仕様 ・130	・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・ 50～100	※40	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下	・ 100～200 ・ 150～250	※70 ※130	外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ		1 ひび割れ部改修		外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ		2 欠損部改修		[4.2.5(1)～(5)][4.3.6] <table><tr><th>種 類</th><th>ひび割れ幅(mm)</th><th>注入口間隔(mm)</th><th>注入量(mL/m)</th></tr><tr><td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上1.0未満</td><td>※ 200～300</td><td>※製造所の仕様 ・130</td></tr><tr><td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上0.3未満</td><td>・ 50～100</td><td>※40</td></tr><tr><td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下</td><td>・ 100～200 ・ 150～250</td><td>※70 ※130</td></tr></table> コア抜取り検査 ※行わない ・行う(長さ500mごと及びその端数につき1個。補修方法は図示による) ・Uカットシール材充填工法 [4.2.6][4.3.7] 充填材料 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・行わない ・可とう性エポキシ樹脂 ・シール工法 [4.2.7][4.3.8] ・バテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂 ※充填工法 [4.2.8(3)(4)][4.3.9] ※エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル		種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※ 200～300	※製造所の仕様 ・130	・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・ 50～100	※40	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下	・ 100～200 ・ 150～250	※70 ※130																																								
種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)																																																																																												
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※ 200～300	※製造所の仕様 ・130																																																																																												
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・ 50～100	※40																																																																																												
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下	・ 100～200 ・ 150～250	※70 ※130																																																																																												
種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)																																																																																												
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※ 200～300	※製造所の仕様 ・130																																																																																												
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・ 50～100	※40																																																																																												
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下	・ 100～200 ・ 150～250	※70 ※130																																																																																												
				外壁改修工事 コンクリート打放し仕上げ		① ひび割れ部改修		外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ		2 欠損部改修		[4.2.5(1)～(5)][4.3.6] <table><tr><th>種 類</th><th>ひび割れ幅(mm)</th><th>注入口間隔(mm)</th><th>注入量(mL/m)</th></tr><tr><td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上1.0未満</td><td>※ 200～300</td><td>※製造所の仕様 ・130</td></tr><tr><td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上0.3未満</td><td>・ 50～100</td><td>※40</td></tr><tr><td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下</td><td>・ 100～200 ・ 150～250</td><td>※70 ※130</td></tr></table> コア抜取り検査 ※行わない ・行う(長さ500mごと及びその端数につき1個。補修方法は図示による) ・Uカットシール材充填工法 [4.2.6][4.3.7] 充填材料 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・行わない ・可とう性エポキシ樹脂 ・シール工法 [4.2.7][4.3.8] ・バテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂 ※充填工法 [4.2.8(3)(4)][4.3.9] ※エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル		種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※ 200～300	※製造所の仕様 ・130	・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・ 50～100	※40	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下	・ 100～200 ・ 150～250	※70 ※130	外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ		1 ひび割れ部改修		外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ		2 欠損部改修		[4.2.5(																																																									
種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)																																																																																												
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※ 200～300	※製造所の仕様 ・130																																																																																												
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・ 50～100	※40																																																																																												
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満 0.5以上1.0以下	・ 100～200 ・ 150～250	※70 ※130																																																																																												

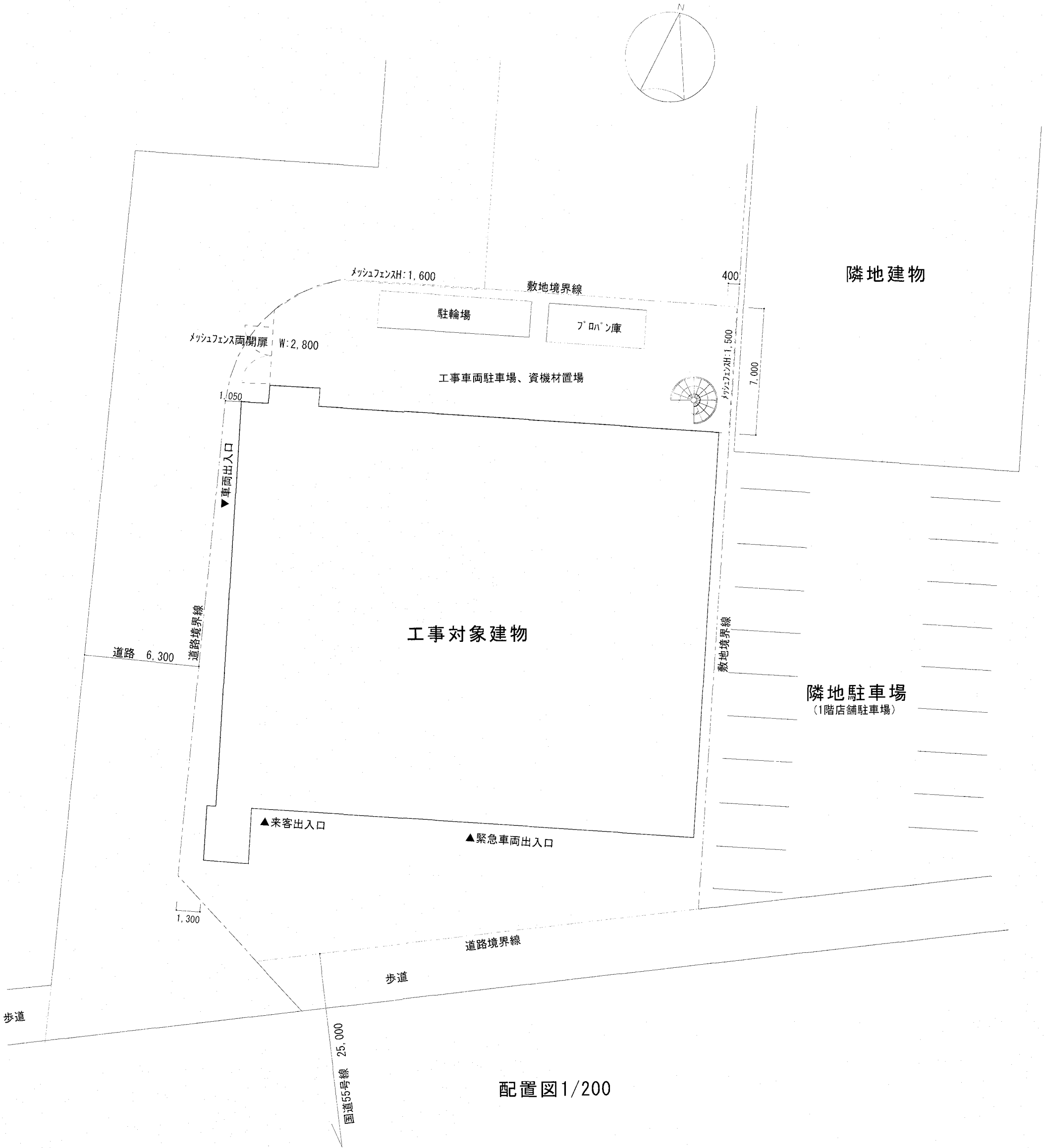


付近見取図

工事場所 中央消防署西出張所

【施工条件】

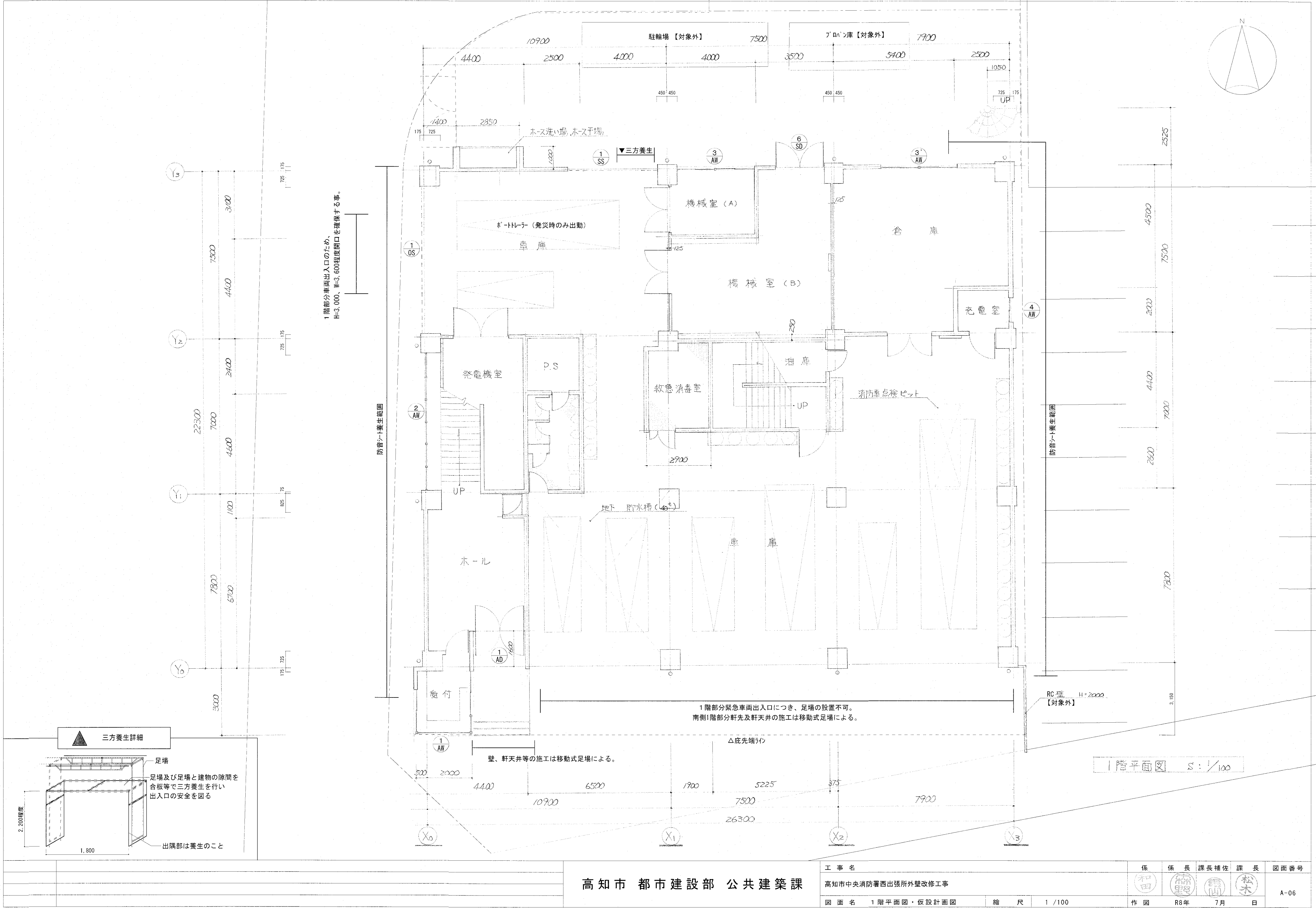
- ・東面足場設置の際は、隣地建物1階店舗と協議のうえ日程を決めるものとする。なお、設置した東面足場はフェブ保安灯及びカーコン等で駐車場利用者の安全を図ること。
- ・東面施工の際は、事前に隣地建物へお知らせ文書等で周知のうえ作業を行うものとする。
- ・西面、東面及び一部北面は防音シート張りとし飛散防止に努める。（範囲は図面番号A-06～A-08参照）
- ・道路に面した仮設足場等にはフェブ保安灯等を設置し、通行の安全を確保すること。
- ・施工に際して道路法及び道路交通法に基づき、事前に必要な許可等を得ること。なお、高知市道路占用料徴収条例による道路占用料は別途とする。
- ・外壁面に設置されている設備（配線・配管・室外機など）は既存のままとし、養生のうえ作業を行うこと。
- ・南面1階部分緊急車両出入口は、足場の設置が出来ないため、移動式足場によること。



配置図1/200

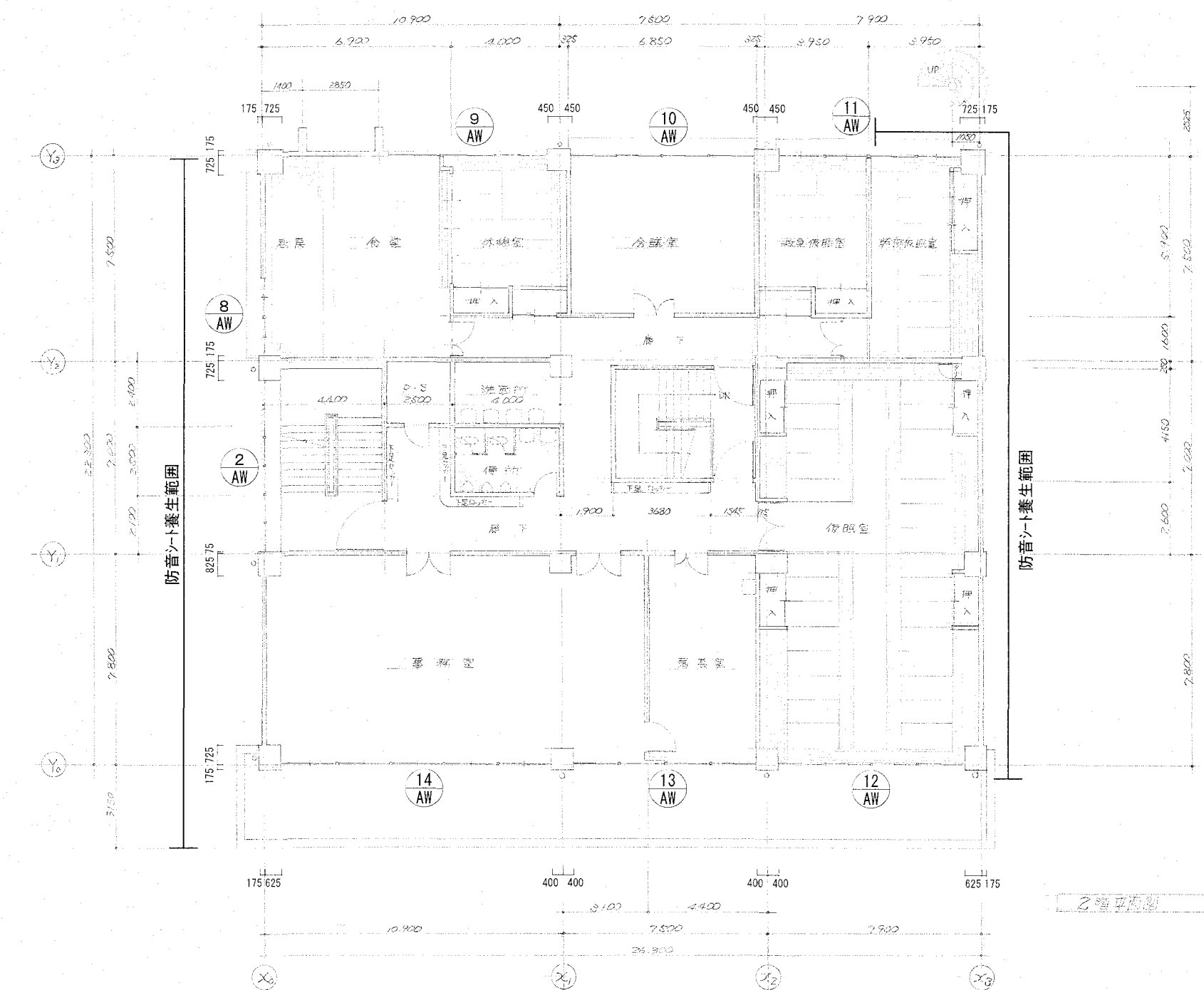
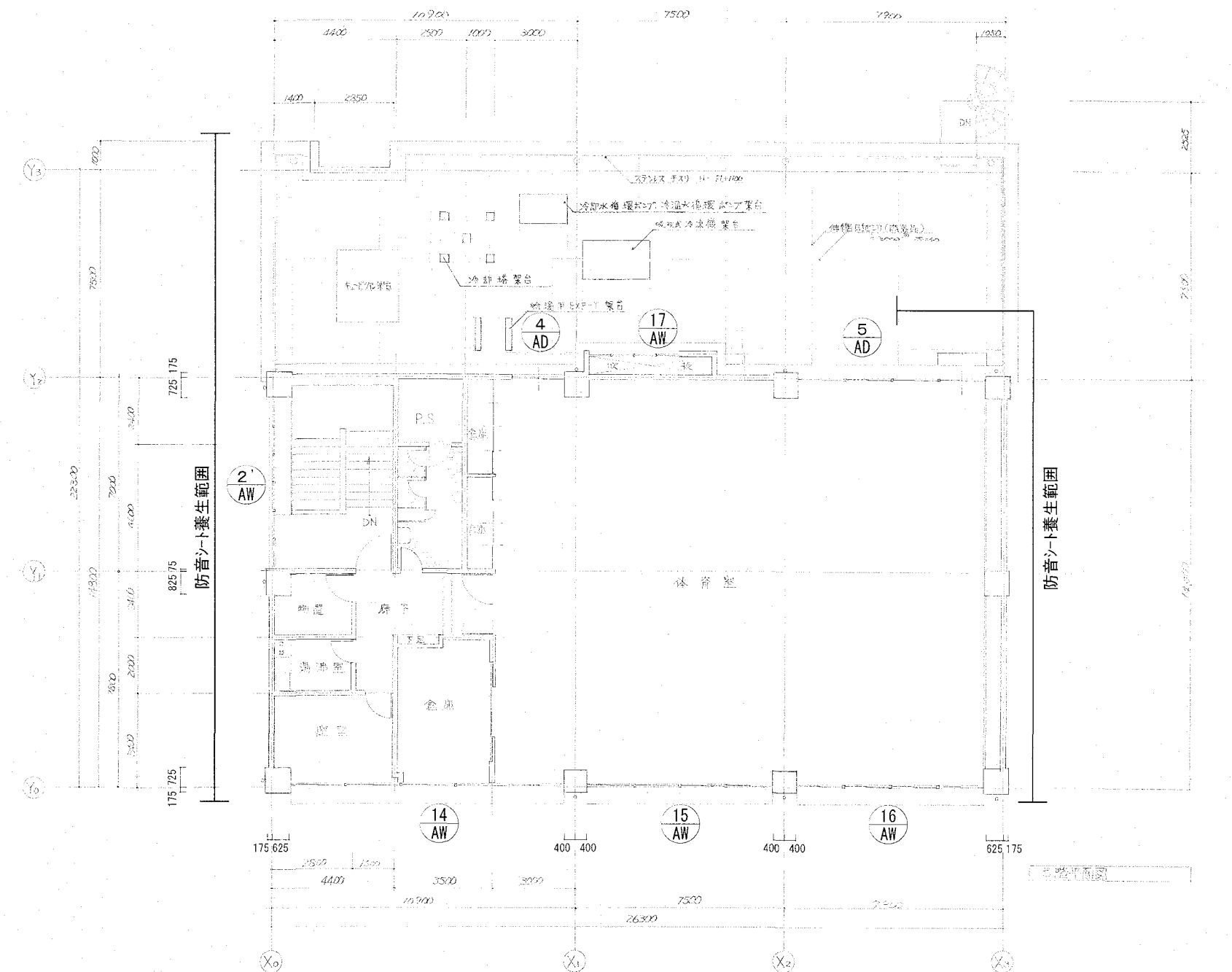
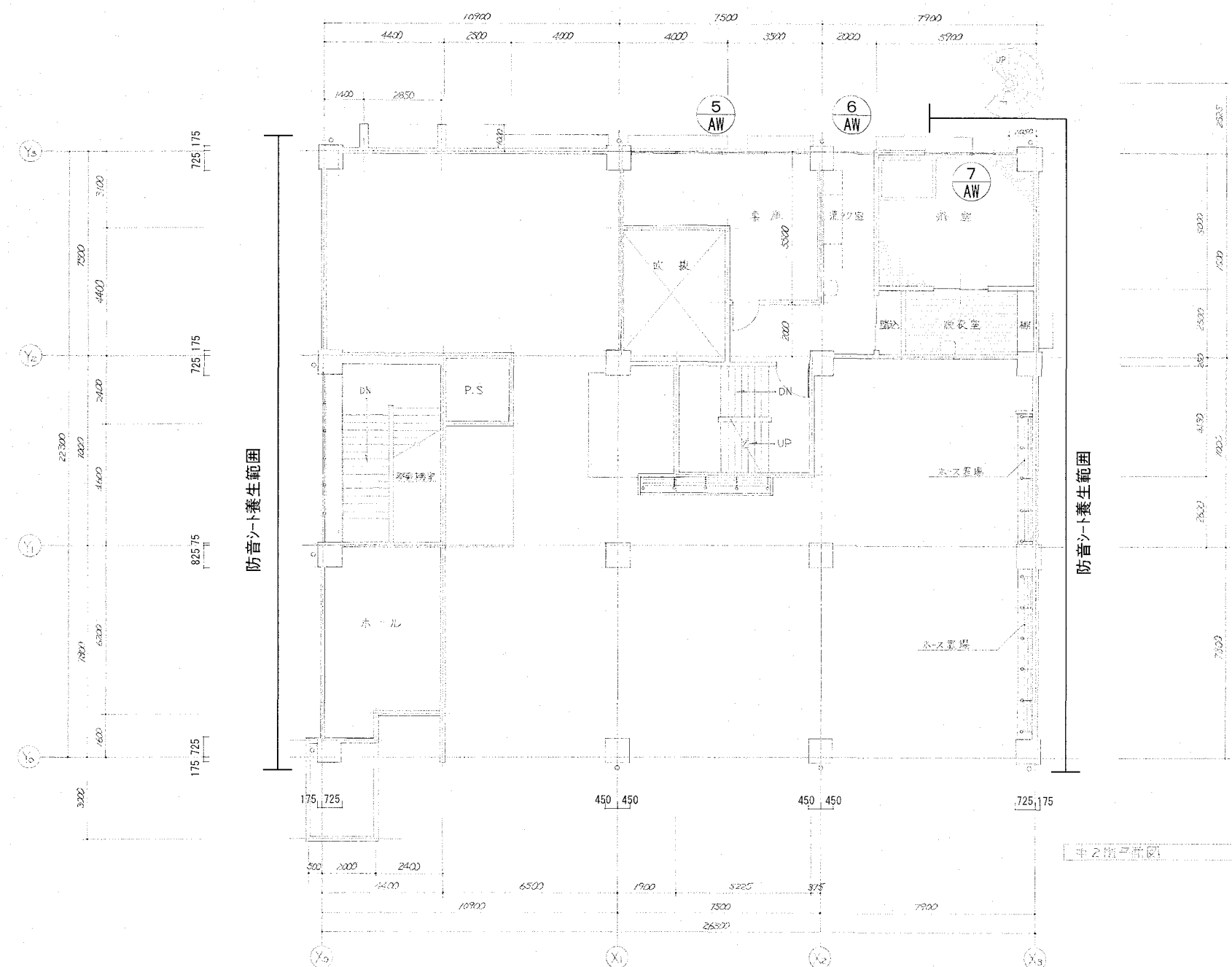
高知市 都市建設部 公共建築課

工 事 名		係	係 長	課長補佐	課 長	図面番号
高知市中央消防署西出張所外壁改修工事						A-05
図 面 名	付近見取図・配置図・仮設計画図	縮 尺	1 / 200	作 図	R8年 7月 日	



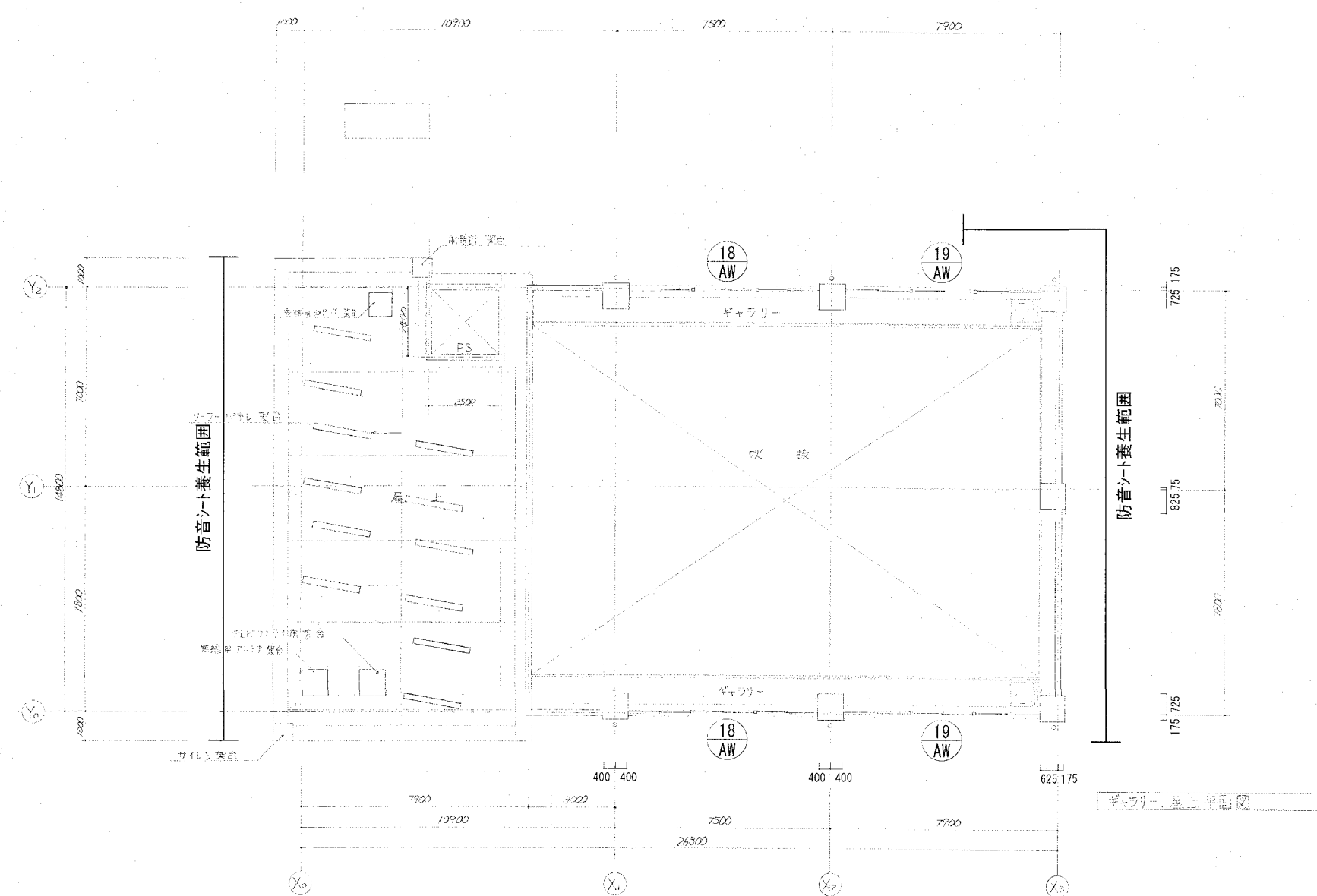
高知市 都市建設部 公共建築課

工事名		係	係長	課長補佐	課長	図面番号
高知市中央消防署西出張所外壁改修工事		和田	和野	田中	松本	A-06
図面名	1階平面図・仮設計画図	縮尺	1/100	作図	R8年 7月 日	

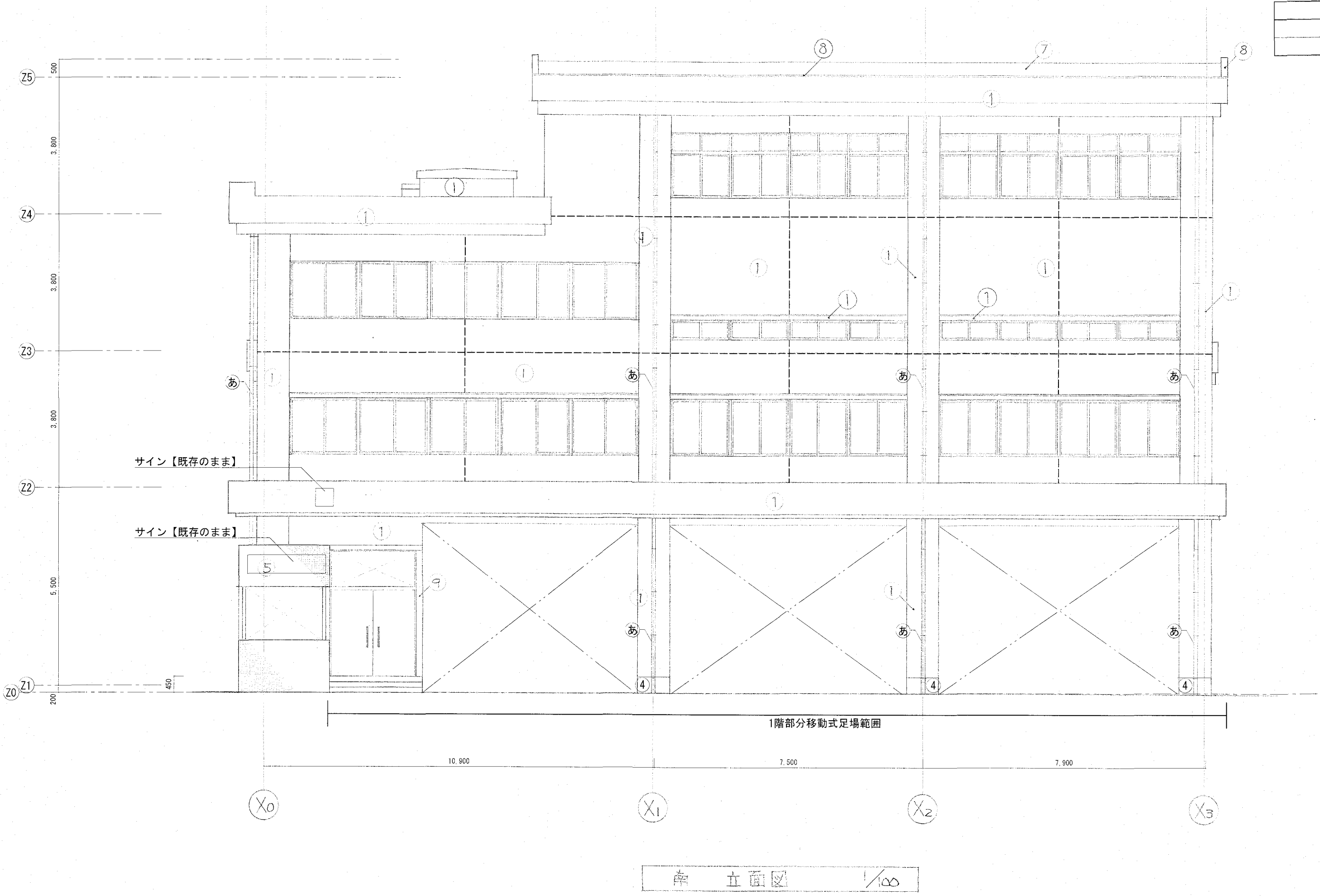


高知市 都市建設部 公共建築課

工事名	高知市中央消防署西出張所外壁改修工事	係	和	係長	松	課長補佐	松	課長	松	図面番号	A-07
図面名	2階・3階平面図・仮設計図	縮尺	1 / 200	作図	R8年	7月	日				



高知市 都市建設部 公共建築課		工 事 名		係	係 長	課長補佐	課 長	図面番号
		高知市中央消防署西出張所外壁改修工事						A-08
		図 面 名 屋上平面図・屋根伏図・仮設計画図	縮 尺	1 / 200	作 図	R8年	7月	



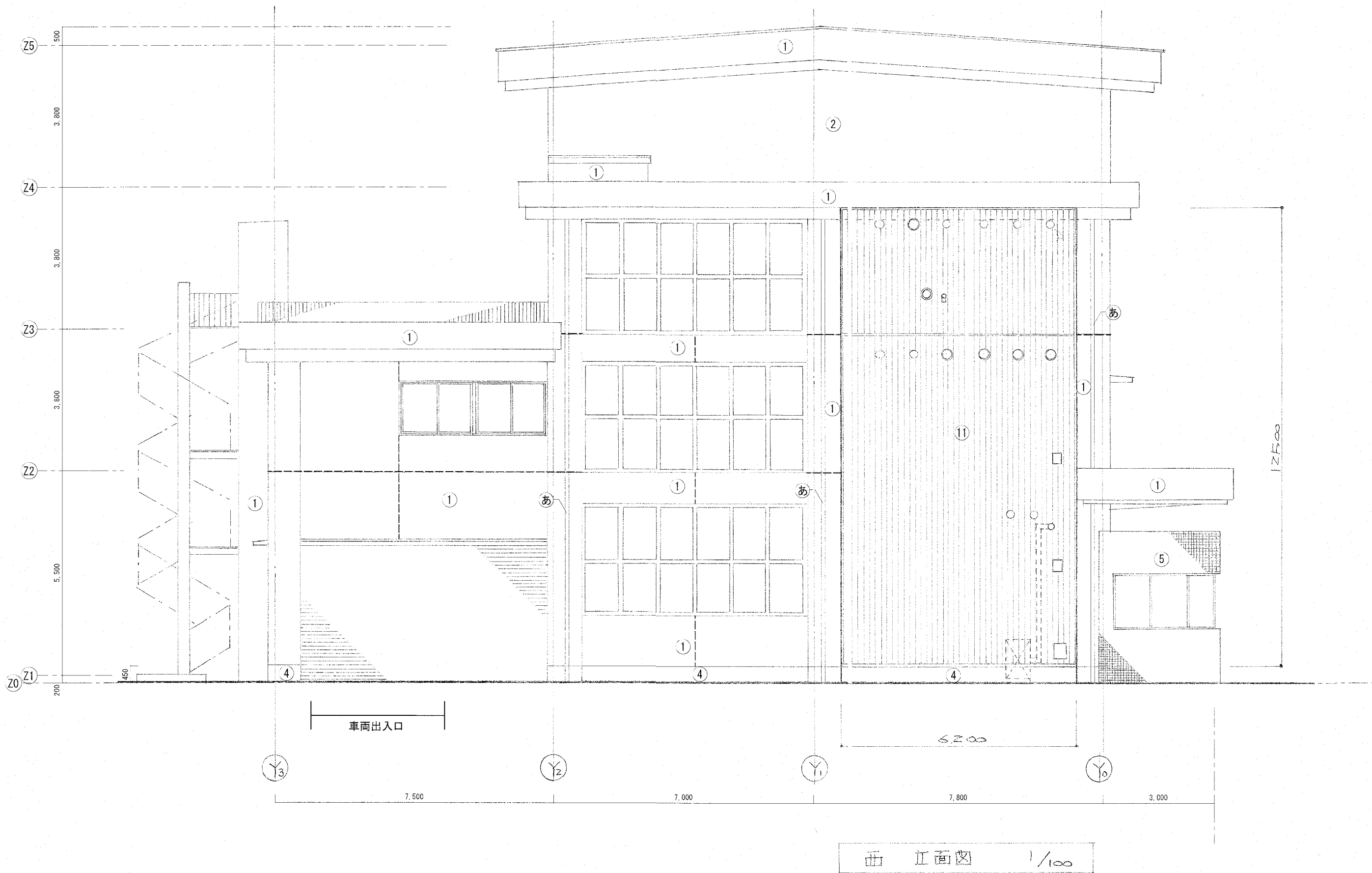
外壁改修		
外壁改修【コンクリート打放し仕上げ】		合計
ひび割れ（0.2以上～1.0mm未満）	自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	15.00 m
ひび割れ（1.0mm以上）	ウレタン材充填工法	m
欠損	充填工法（エポキシ樹脂モルタル）	0.20 m ²

外壁改修		
外壁改修【タイル張り仕上げ】		合計
ひび割れ（0.2以上～1.0mm未満）	自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.50 m

改修前仕上り表					
①	ベニヤ型枠コンクリート打放し 吹付タイル	⑤	50角タイル貼	⑨	テラゾブロック貼 W=150
②		⑥		○	
③	ベニヤ型枠コンクリート打放し リンゴ付	⑦	ALC版下地シート防水①.2巻目仕上	○	
④	ベニヤ型枠コンクリート打放し	⑧	アルミ壁木	あ	たて樋 VP φ100

改修後仕上り表					
①	水洗い工法のうえ、下地調整、複層塗材E	⑤	水洗い工法	⑨	テラゾブロック撤去、下地調整（OM-2）のうえ、複層塗材E
②		⑥		⑩	
③	水洗い工法のうえ、外装薄塗材E	⑦	既存のまま	⑪	
④	水洗い工法	⑧	既存のまま	あ	既存撤去、カーVPφ100【新設】掘み金物共

※ 数量及び工法は想定とし、施工数量調査の結果により変更する。
※ 外壁面既存タイル廻りシーリング MS-2(15×15)二重水切り部共、【撤去・新設】とする。
※ 目地シーリング ----- たてPU-2(15×15)、よこPU-2(15×20)【撤去・新設】とする。



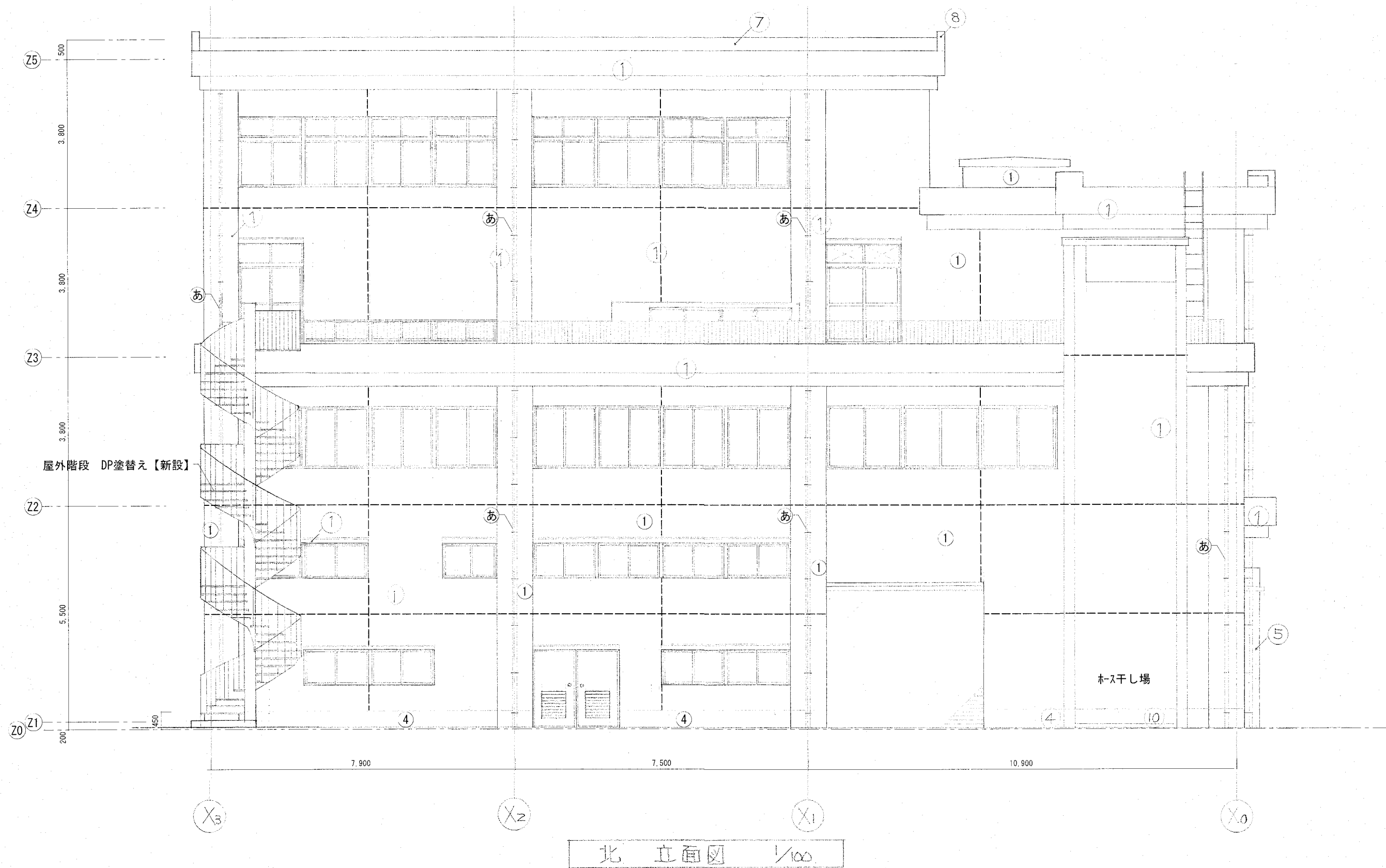
改修前仕上げ表

①	ベニヤ型枠コンクリート打放シ 吹付タイル	⑤	50角タイル貼	⑨	
②	ALC版下地 吹付タイル	⑥		⑩	
③	ベニヤ型枠コンクリート打放シ リンシ吹付	⑦		⑪	ガルバリウム鋼板t=0.4 スパンドール張り
④	ベニヤ型枠コンクリート打放シ	⑧		⑫	たて樋 VP φ100

改修後仕上げ表

①	水洗い工法のうえ、下地調整、複層塗材E	⑤	水洗い工法	⑨	
②	水洗い工法のうえ、下地調整、複層塗材E	⑥		⑩	
③	水洗い工法のうえ、外装薄塗材E	⑦		⑪	下地調整のうえ、DP塗り 壁取合部たてMS-2 10×10【撤去・新設】共
④	水洗い工法	⑧		⑫	既存撤去、たてVPφ100【新設】握み金物共

- ※ 数量及び工法は想定とし、施工数量調査の結果により変更する。
※ 外壁面既存サッシ廻りシリング MS-2(15×15)二重水切り部共、【撤去・新設】とする。
※ 目地シリング ----- たてPU-2(15×15)、よこPU-2 (15×20) 【撤去・新設】とする。
※ ②たて目地シリング よこPU-2(10×10)、たてPU-2(10×10)@600【撤去・新設】とする。
※ ②、⑪は施工数量調査の対象外とする。



①	ベニヤ型枠コンクリート打放シ 吹付タイル	⑤	50 角タイル 貼	⑨	
②		⑥		⑩	モルタル防水金コテ仕
③	ベニヤ型枠コンクリート打放シ リンシ 吹付	⑦	ALC版下地シート防水①.2 着色仕上	⑪	
④	ベニヤ型枠コンクリート打放シ	⑧	アルミ窓木	あ	たて樋 VP φ100

改修後仕上げ表

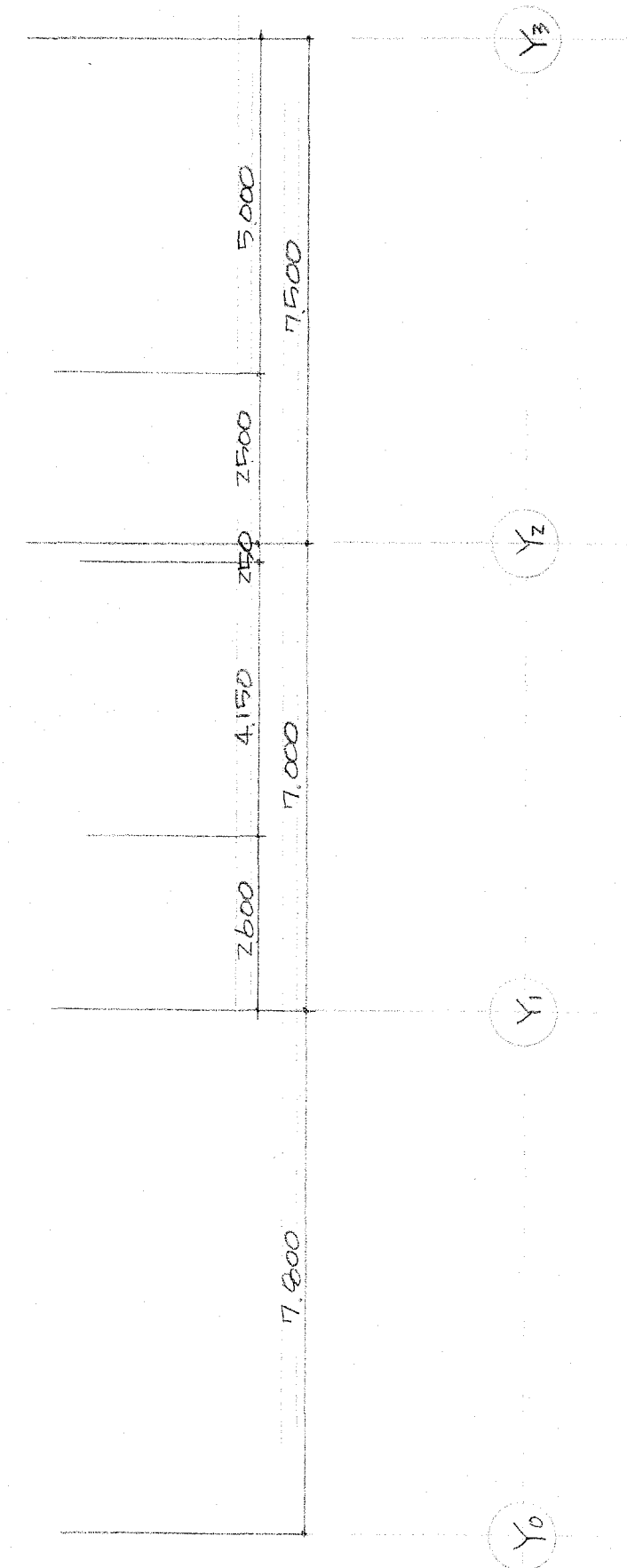
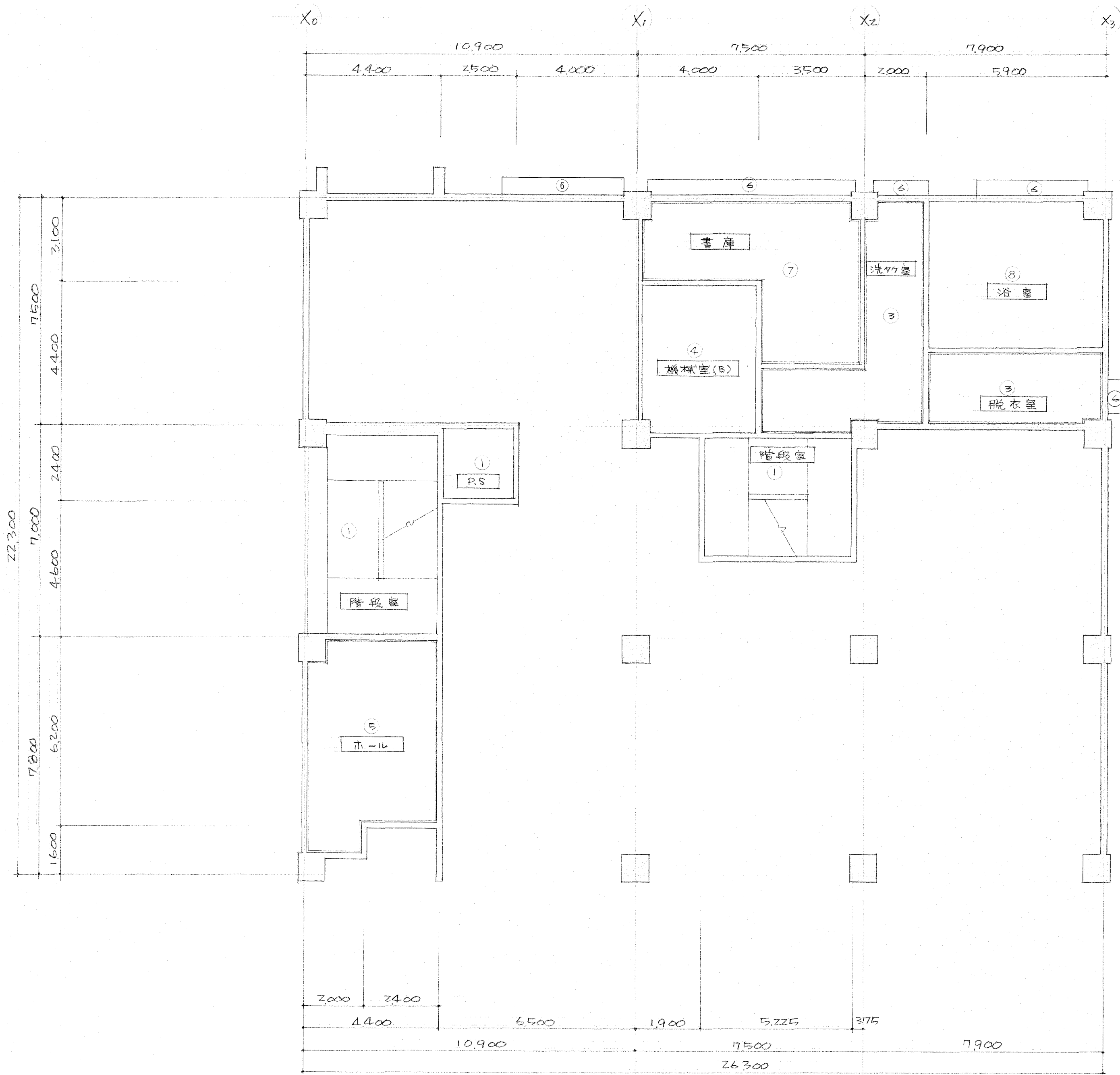
①	水洗い工法のうえ、下地調整、複層塗材E	⑤	水洗い工法	⑨	
②		⑥		⑩	水洗い工法
③	水洗い工法のうえ、外装薄塗材E	⑦	既存のまま	⑪	
④	水洗い工法	⑧	既存のまま	あ	既存撤去、か-VPφ100【新設】 掴み金物共

※ 数量及び工法は想定とし、施工数量調査の結果により変更する。
※ 外壁面既存サッシ廻りシーリング MS-2(15×15)二重水切り部共、【撤去・新設】とする。
※ 目地シーリング ----- たてPU-2(15×15)、よこPU-2(15×20) 【撤去・新設】とする。

			高知市 都市建設部 公共建築課	工 事 名	係	係 長	課長補佐	課 長	図面番号
				高知市中央消防署西出張所外壁改修工事	(和田)	(福里)	(田中)	(松木)	A-12
				図 面 名 西立面図	縮 尺	1 / 100		作 図 R8年 7月 日	



改修前仕上表	
仕上 様	
①	ベニヤ型枠コンクリート打放シ
②	ベニヤ型枠コンクリート打放シ下地 ロウ付タイル
③	ハイカル粉 ⑥ V.P. XL フロビ付
④	木質セメント板 ②5 打込
⑤	PP ②4 打込下地 著線改修板 ②9 フロビ付
⑥	ベニヤ型枠コンクリート打放シ下地 リン 吹付
⑦	PP ②4 打込下地 著線改修板 ②5 フロビ付
改修後仕上表	
①	水洗い工法
②	水洗い工法のうえ、下地調整、複層塗材E
③	水洗い工法のうえ、外装薄塗材E



改修前仕上表

仕上表	
①	ビニル樹脂床材
②	ビニル樹脂床材
③	ビニル樹脂床材
④	ビニル樹脂床材
⑤	ビニル樹脂床材
⑥	ビニル樹脂床材
⑦	ビニル樹脂床材
⑧	ビニル樹脂床材

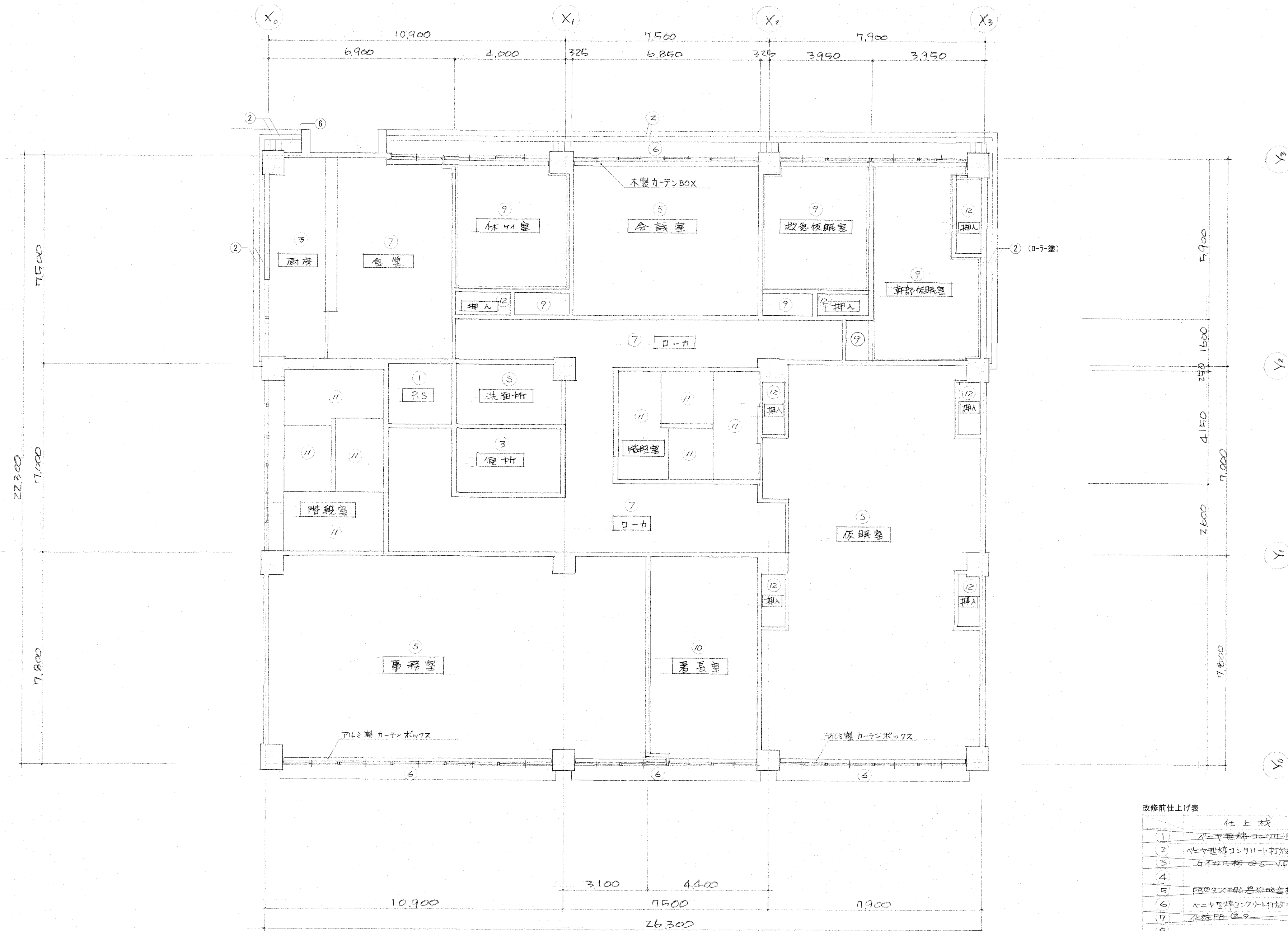
改修後仕上表

⑥	水洗い工法のうえ、外装薄塗材E
---	-----------------

※ 数量及び工法は想定とし、施工数量調査の結果により変更する。

高知市 都市建設部 公共建築課

工事名		係	係長	課長補佐	課長	図面番号
高知市中央消防署西出張所外壁改修工事		和田	市川	市川	市川	A-14
図面名	中2階天井伏図	縮尺	1 / 100	作図	R8年 7月 日	



2階天井伏図 1/100

改修前仕上表

仕上材
1 アルミ製カーテンボックス
2 アルミ製カーテンボックス、下地調整、複層塗材E
3 アルミ製カーテンボックス、下地調整
4 アルミ製カーテンボックス、下地調整
5 アルミ製カーテンボックス、下地調整、複層塗材E
6 アルミ製カーテンボックス、下地調整、複層塗材E
7 アルミ製カーテンボックス、下地調整
8 アルミ製カーテンボックス、下地調整
9 アルミ製カーテンボックス、下地調整
10 アルミ製カーテンボックス、下地調整
11 アルミ製カーテンボックス、下地調整、複層塗材E
12 アルミ製カーテンボックス、下地調整

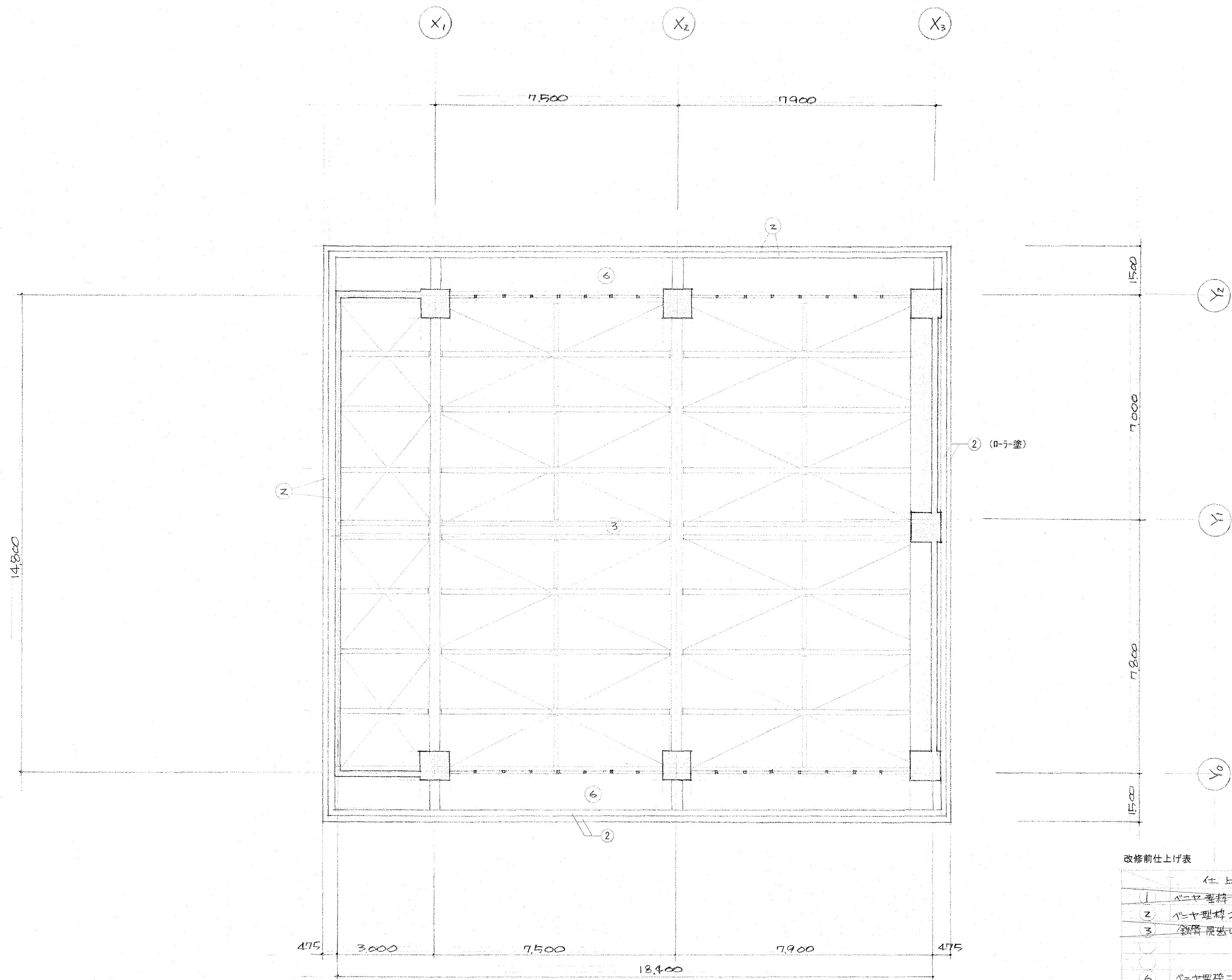
改修後仕上表

2	水洗い工法のうえ、下地調整、複層塗材E
6	水洗い工法のうえ、外装薄塗材E

※ 数量及び工法は想定とし、施工数量調査の結果により変更する。

高知市 都市建設部 公共建築課

工事名	係	係長	課長補佐	課長	図面番号
高知市中央消防署西出張所外壁改修工事	和田	和田	和田	和田	A-15
図面名	2階天井伏図	縮尺	1 / 100	作図	R8年 7月 日



R階天井伏図 1/100

改修前仕上表	
	仕上表
1	ベニヤ型枠コンクリート打設
2	ベニヤ型枠コンクリート打設、下地調整、複層塗材E
3	鉄骨、梁、柱、土台、基礎、コンクリート
4	
5	
6	ベニヤ型枠コンクリート打設、下地調整、複層塗材E

改修後仕上表	
2	水洗い工法のうえ、下地調整、複層塗材E
6	水洗い工法のうえ、外装薄塗材E

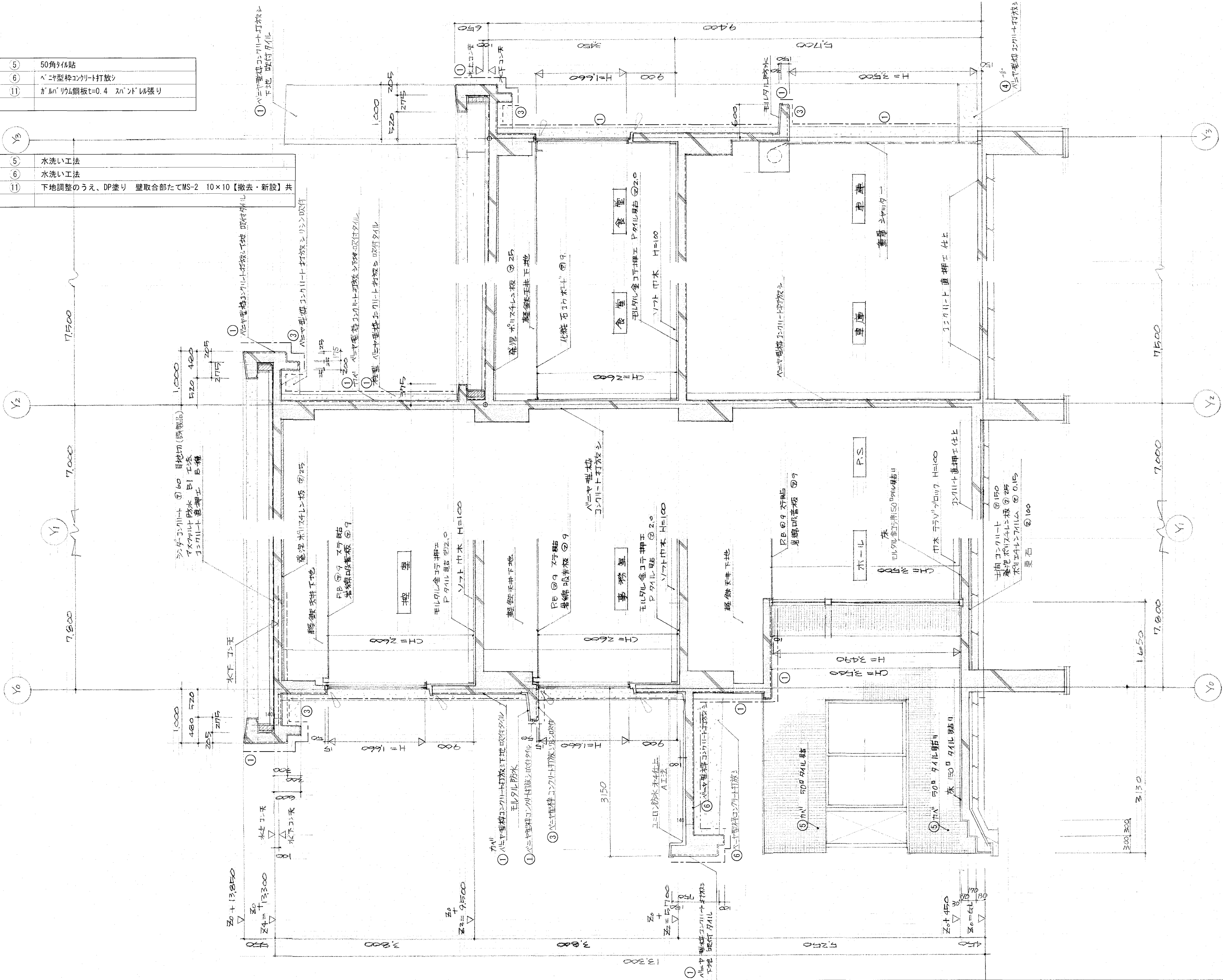
※ 数量及び工法は想定とし、施工数量調査の結果により変更する。

高知市 都市建設部 公共建築課

工 事 名				係	係 長	課長補佐	課 長	図面番号
高知市中央消防署西出張所外壁改修工事				系田	市川	市川	市川	A-17
図 面 名 R階天井伏図		縮 尺	1 / 100	作 図	R8年	7月	日	

改修前仕上表				
①	ベニヤ型枠コンクリート打放シ	吹付タイル	⑤	50角タイル貼
②	ALC版下地	吹付タイル	⑥	ベニヤ型枠コンクリート打放シ
③	ベニヤ型枠コンクリート打放シ	リシン吹付	⑪	ガルバリウム鋼板t=0.4 スパンドル張り
④	ベニヤ型枠コンクリート打放シ			

改修後仕上げ表			
①	水洗い工法のうえ、下地調整、複層塗材E	⑤	水洗い工法
②	水洗い工法のうえ、下地調整、複層塗材E	⑥	水洗い工法
③	水洗い工法のうえ、外装薄塗材E	⑪	下地調整のうえ、DP塗り 壁取合部たてMS-2 10×10【撤去・新設】共
④	水洗い工法		

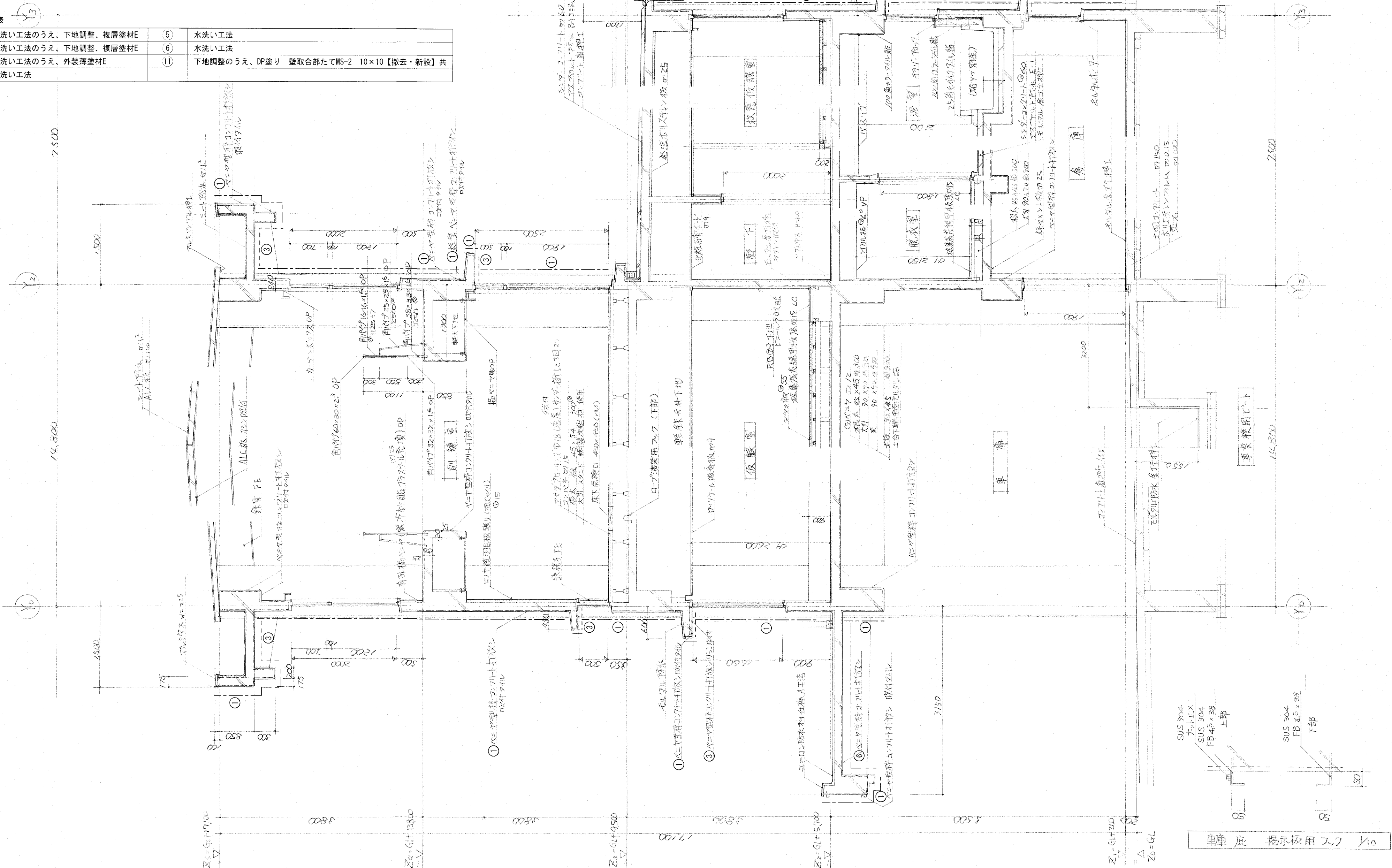


※ たて樋 既存VPφ100【撤去】掘み金物共、新VPφ100【新設】掘み金物共
※ 外壁面既存サッシ廻りシーリング MS-2(15×15)二重水切り部共、【撤去・新設】とする。
※ 目地シーリング たてPU-2(15×15)、よこPU-2(15×20)【撤去・新設】とする。
※ ②、⑪は施工数量調査の対象外とする。

高知市 都市建設部 公共建築課

工事名	係	係長	課長補佐	課長	図面番号
高知市中央消防署西出張所外壁改修工事	和田	和田	和田	和田	A-18
図面名 矩計図1	縮尺 1/50	作図 R8年 7月 日			

改修後仕上り表	
①	水洗い工法のうえ、下地調整、複層塗材E
②	水洗い工法のうえ、下地調整、複層塗材E
③	水洗い工法のうえ、外装薄塗材E
④	水洗い工法



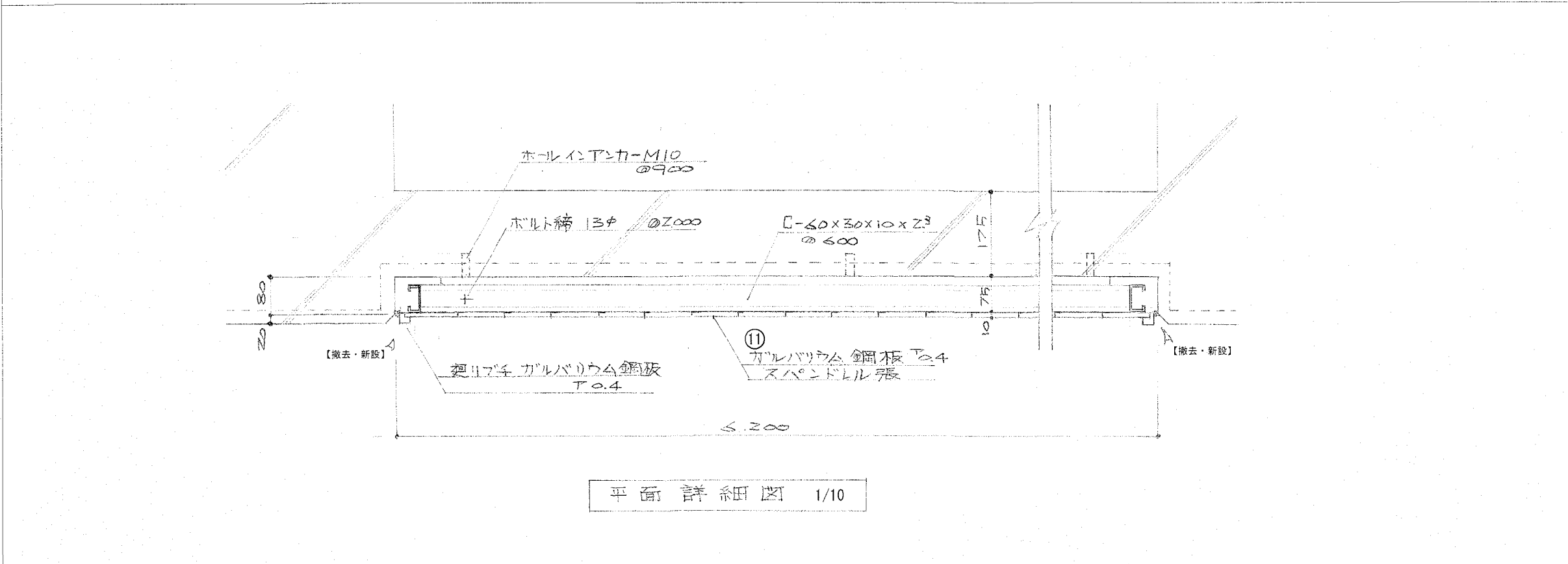
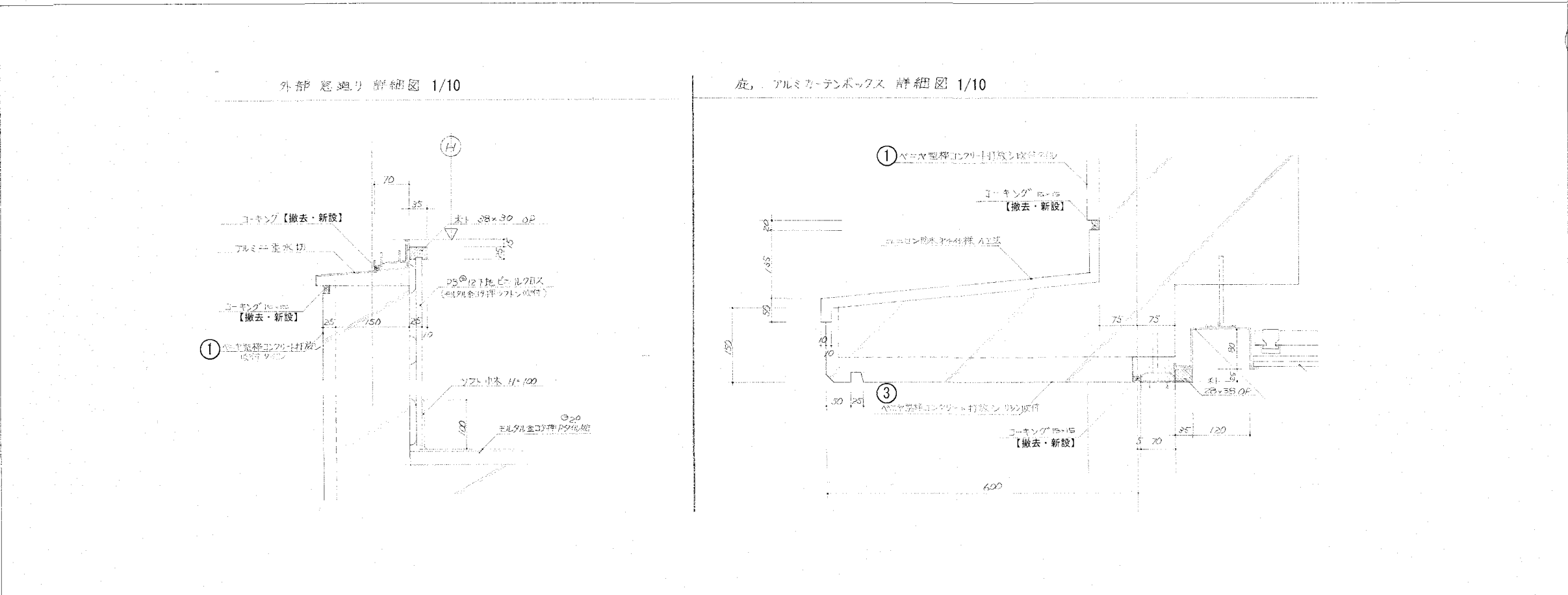
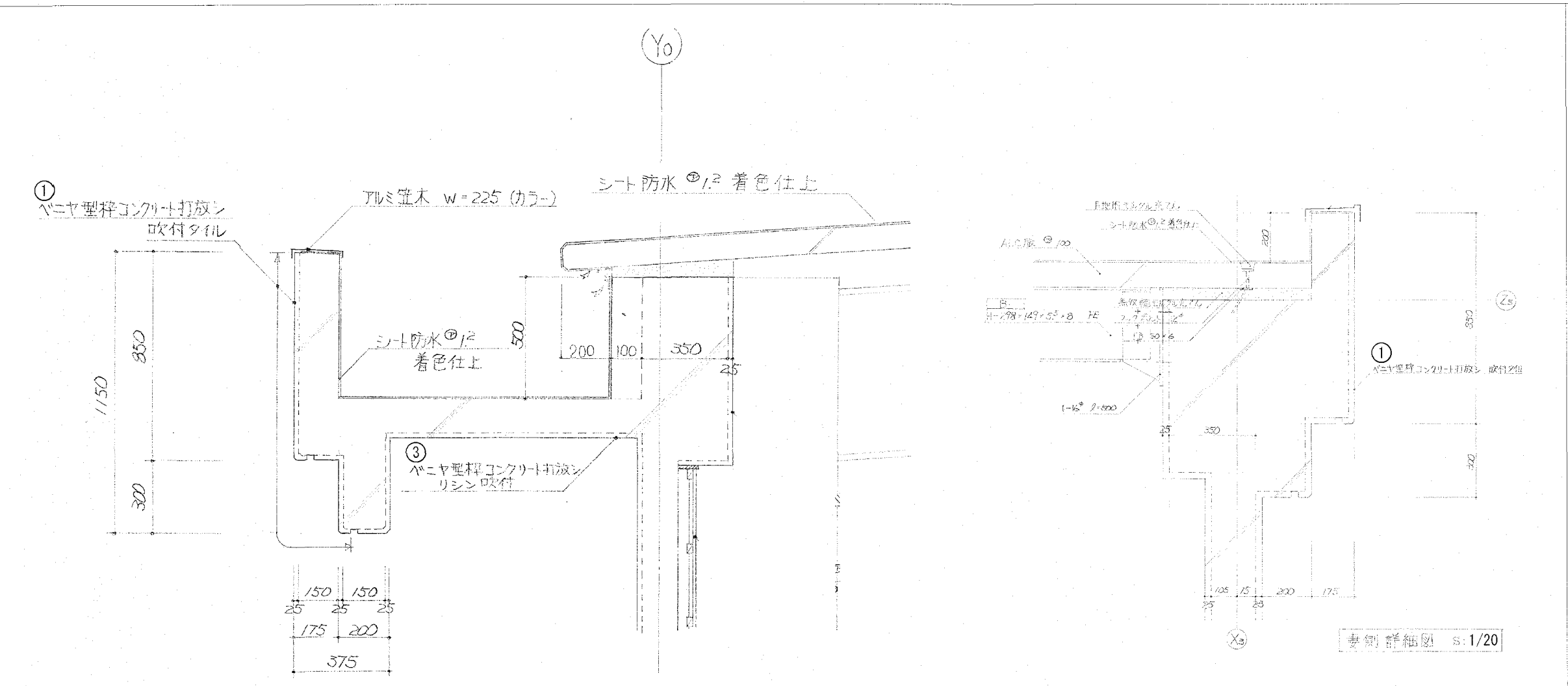
※ たて樋 既存VPφ100【撤去】掘り金物共、かへVPφ100【新設】掘り金物共 ※ 数字、【文字】の特記がないものは、既存のままとする。
 ※ 外壁面既存サッシ廻りシリング MS-2(15×15)二重水切り部共、【撤去・新設】とする。
 ※ 目地シリング たてPU-2(15×15)、よこPU-2(15×20)【撤去・新設】とする。
 ※ ②、⑩は施工数量調査の対象外とする。

工事名	高知市中央消防署西出張所外壁改修工事
-----	--------------------

図 面 名 矩 計 図 2

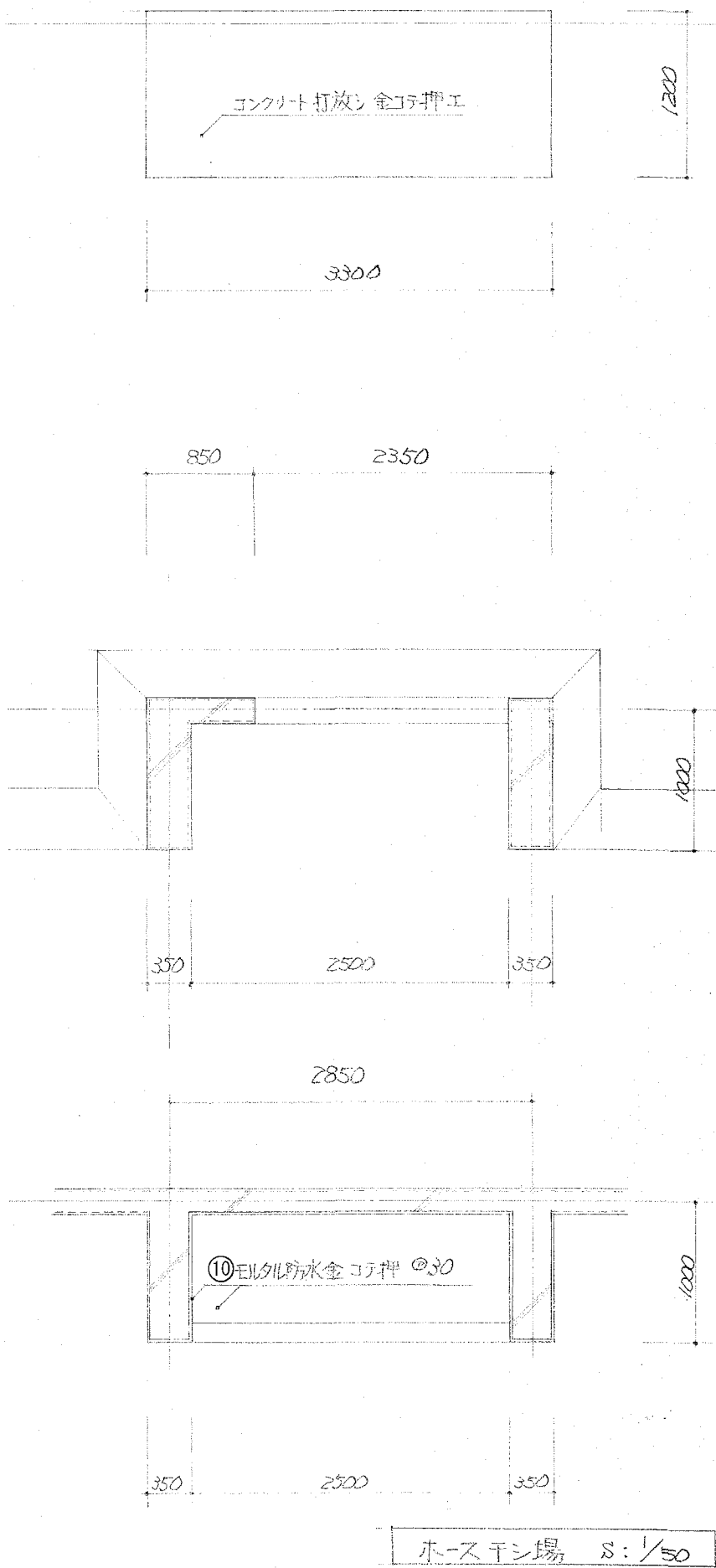
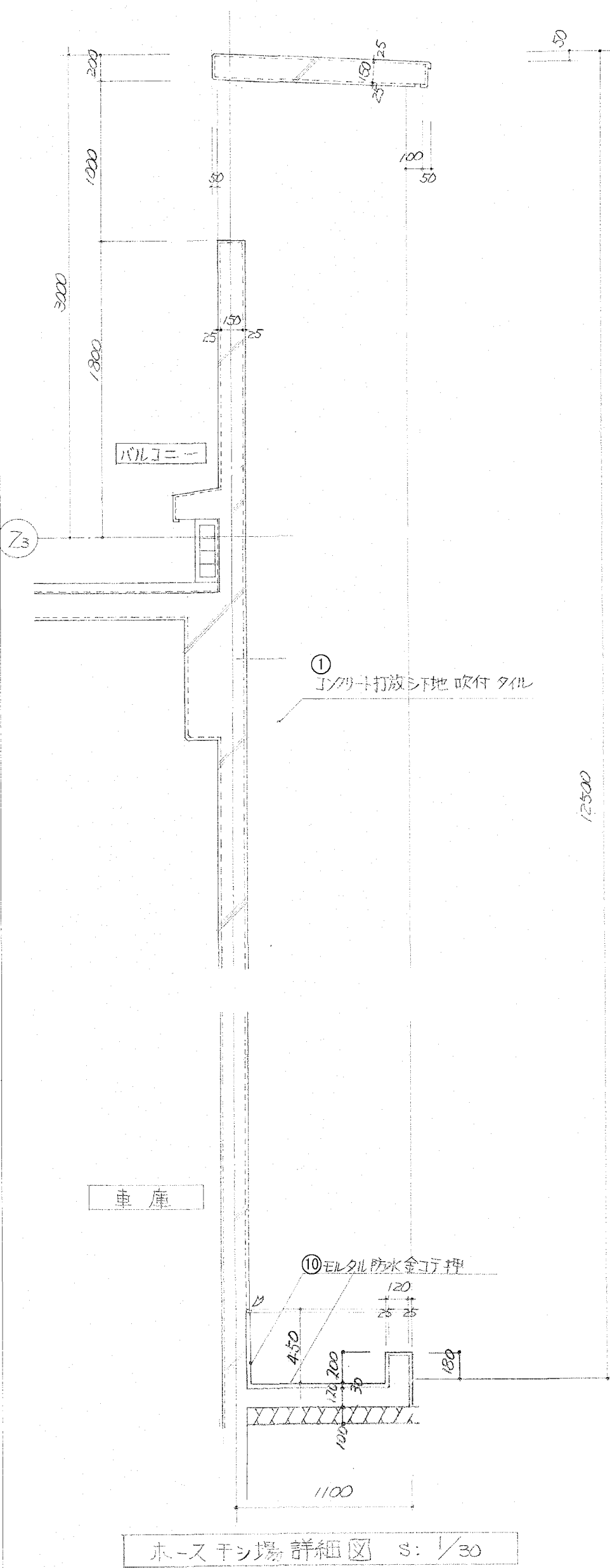
縮	尺	1 / 50
---	---	--------

係	係 長	課長補佐	課 長	図面番号
				A-19
作 図	R8年	7月	日	



改修後仕上げ表

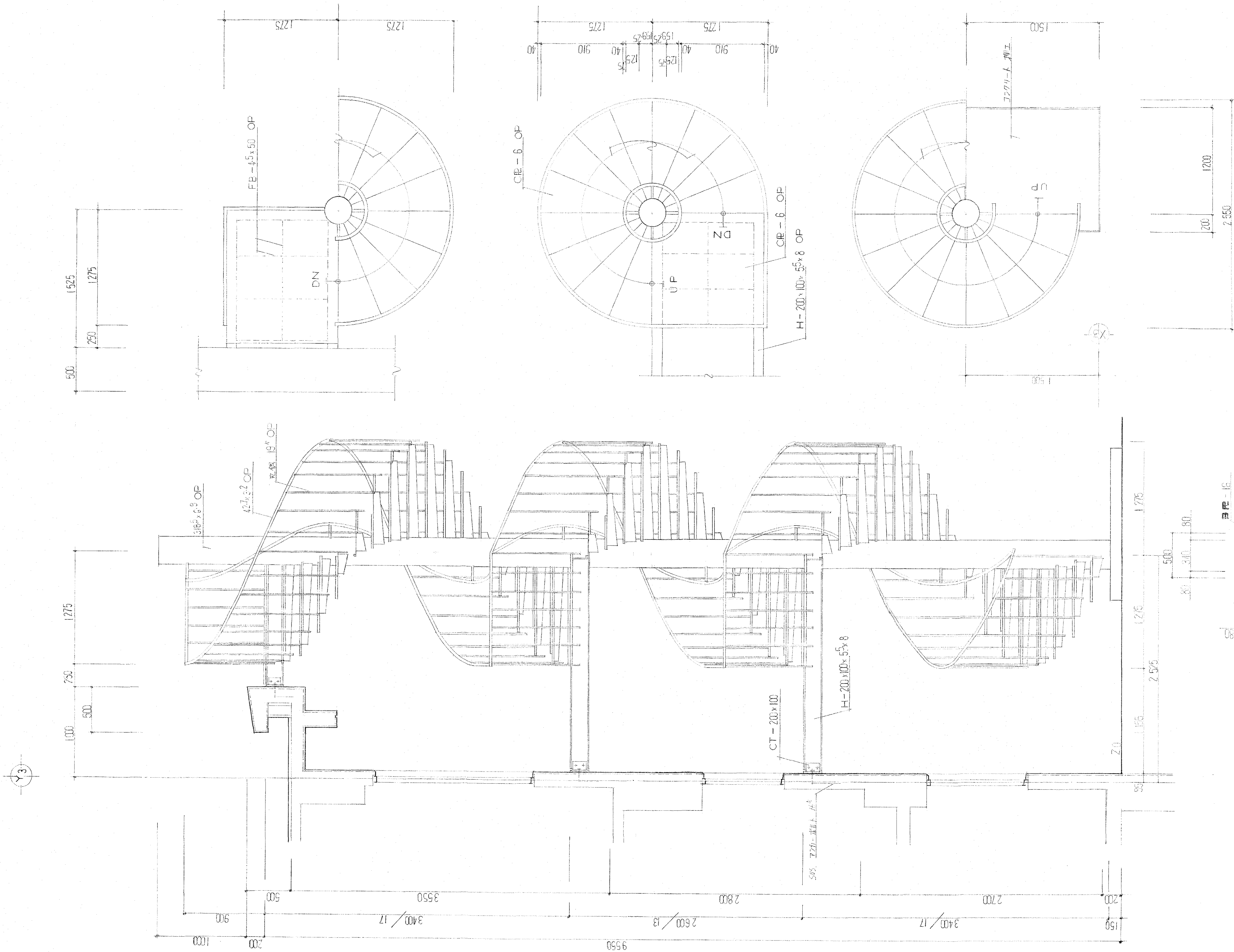
①	水洗い工法のうえ、下地調整、複層塗材E	⑤	
②		⑩	水洗い工法
③	水洗い工法のうえ、外装薄塗材E	⑪	下地調整のうえ、DP塗り 壁取合部たてMS-2 10×10【撤去・新設】共
④			



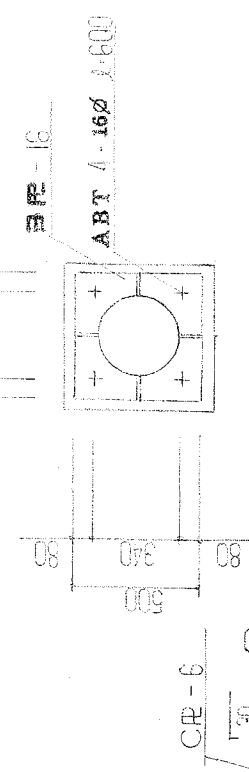
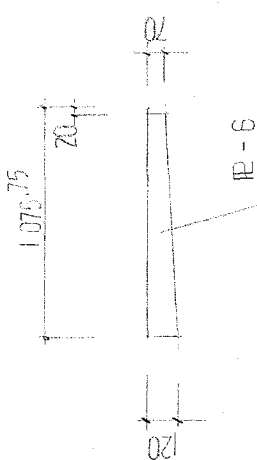
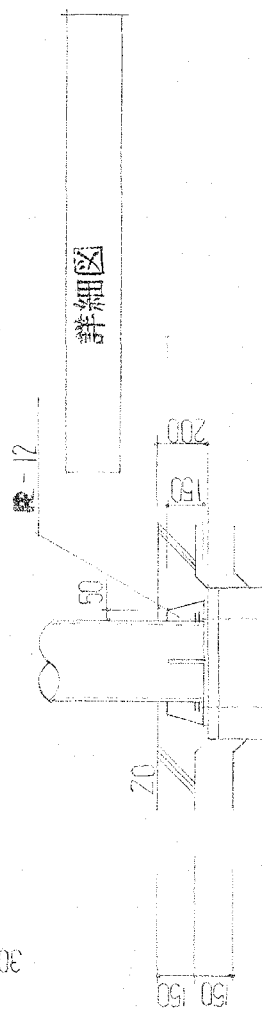
※ たて樋 既存VPφ100【撤去】掘り金物共、加-VPφ100【新設】掘り金物共	※ 数字、【文字】の特記がないものは、既存のままとする。
※ 外壁面既存サッシ廻りシーリング MS-2(15×15) 二重水切り部共、【撤去・新設】とする。	
※ 目地シーリング たてPU-2(15×15)、よこPU-2 (15×20) 【撤去・新設】とする。	

高知市 都市建設部 公共建築課

工 事 名	係	係 長	課長補佐	課 長	図面番号
高知市中央消防署西出張所外壁改修工事	和田	和田	和田	松本	A-20
図 面 名	縮 尺	1/10	1/20	1/30	1/50
作 図	R8年	7月	日		



既存仕上
※ 鉄部のみを、現況の図
【改修】
鉄部は全て、下地調整のうえ、DP塗替え

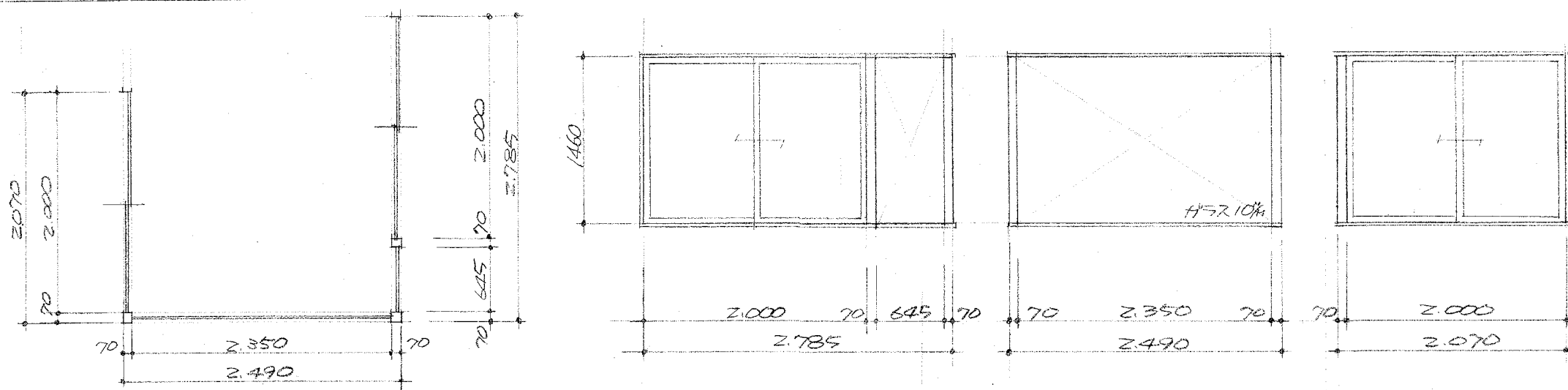
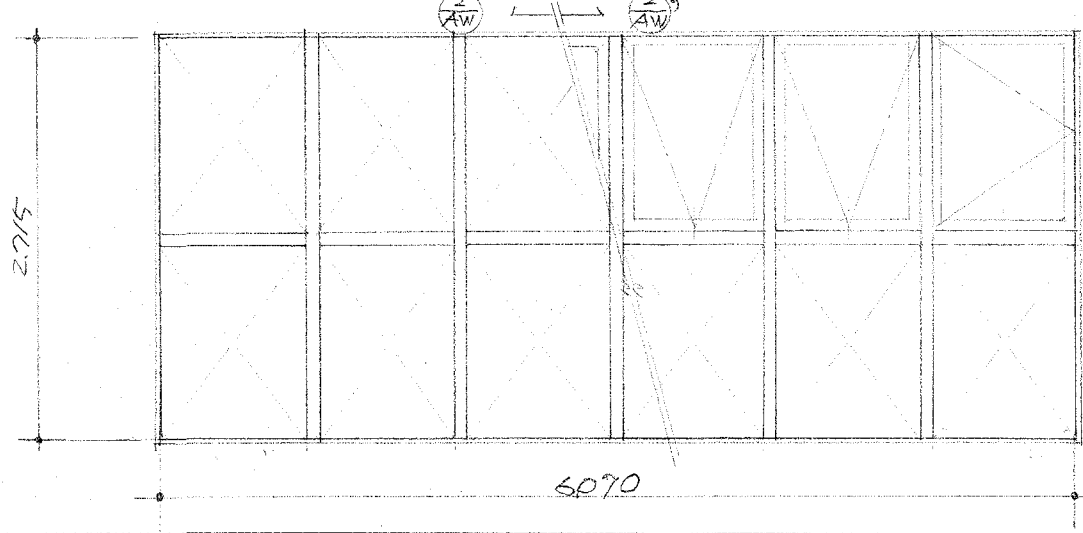
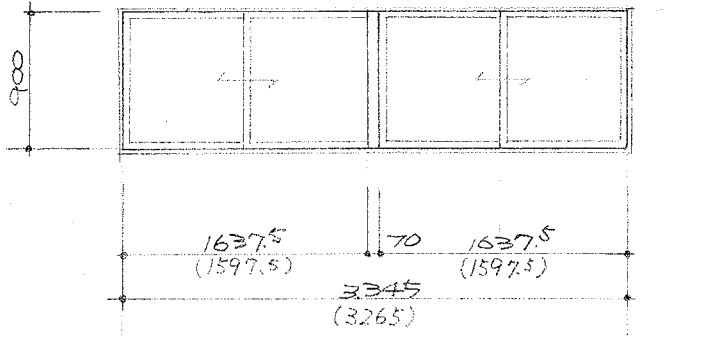
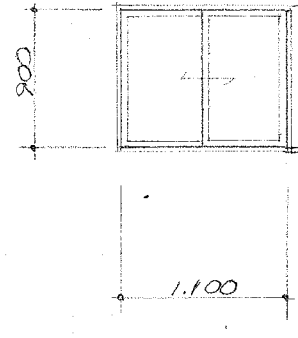
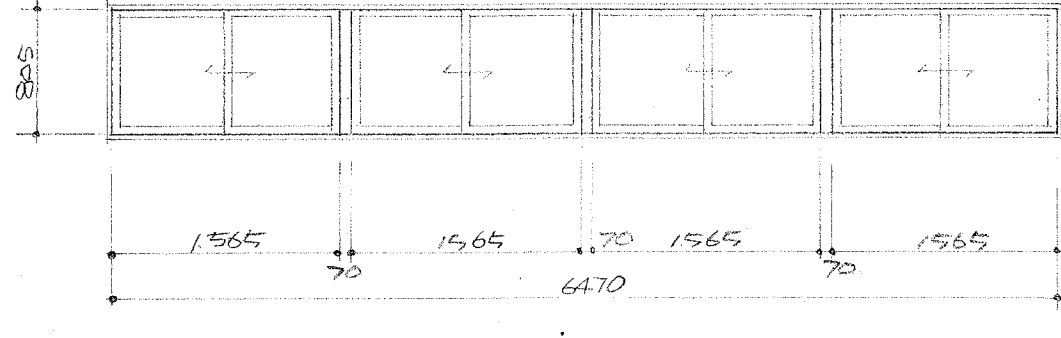
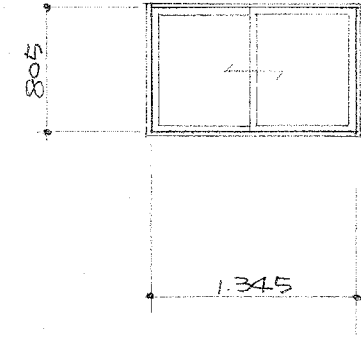
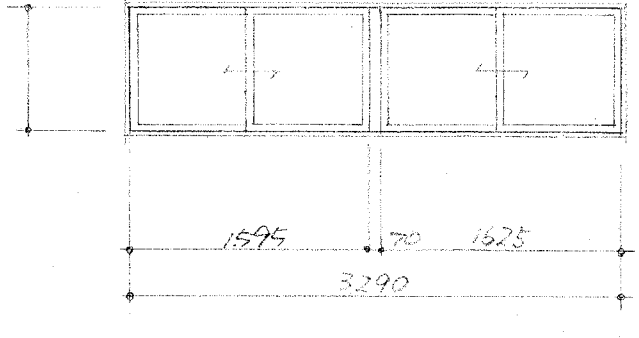
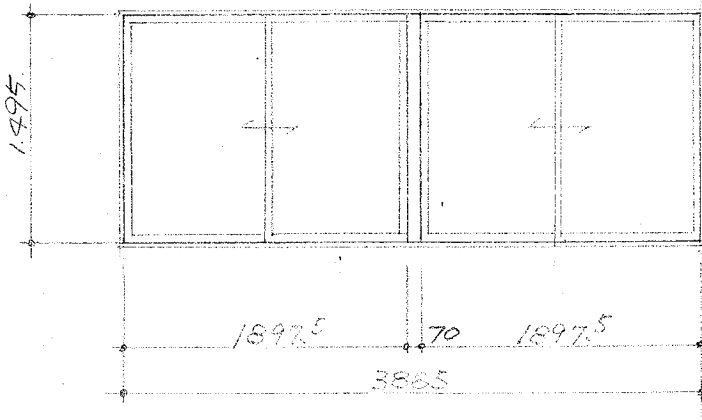
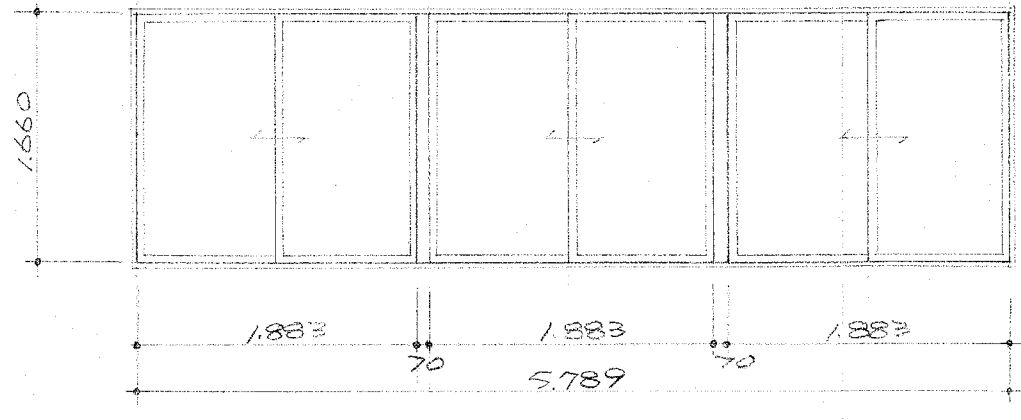
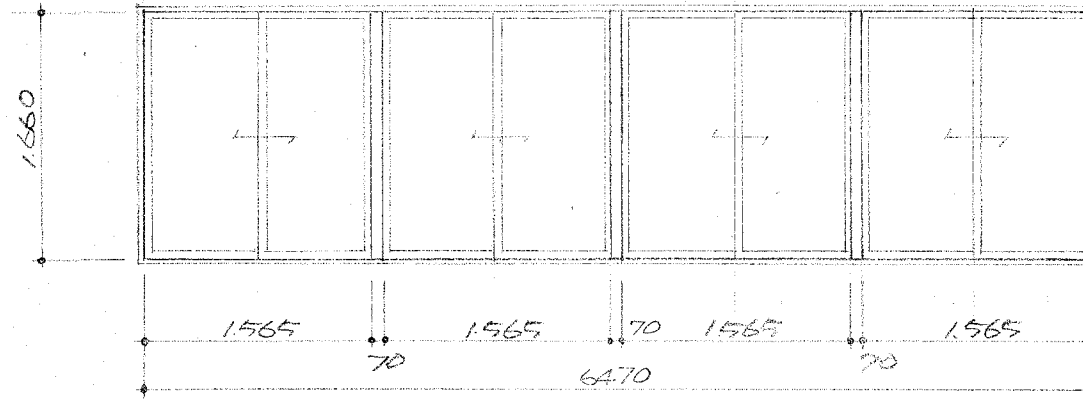


高知市 都市建設部 公共建築課

工事名
高知市中央消防署西出張所外壁改修工事
図面名 屋外階段

縮尺 1 / 30

係 係長 課長補佐 課長 図面番号
作図 R8年 7月 日 A-21

記号 室名	1 AW 受付			2 AW 階段室(A)		
寸法						
箇所	142L			242L		
見込	70			70		
材種	アルミサッシ、引違いFIX連窓			アルミサッシ 連窓FIX		
硝子	熱線吸収ガラス 5%・10% H=2.10%			単入 1-X1 6.8%		
金物	附属金物1式、戸車、フック、引手、アンクルピース、水切			附属金物1式、水切、アルミ額縁		
塗装				全左		
記号 室名	3 AW 機械室(A)	3 AW 倉庫	4 AW 充電室	5 AW 書庫	6 AW 洗トイレ	7 AW 浴室
寸法						
箇所	各 142L		142L	142L	142L	142L
見込	70		70	70	70	70
材種	アルミサッシ		アルミサッシ	アルミサッシ	アルミサッシ	アルミサッシ
硝子	単入型ガラス 6.8% (1597.5)		単入型ガラス 6.8% (1597.5)	型ガラス 4% (1597.5)	単入型ガラス 6.8% (1597.5)	アルミ型ガラス 6.8% (1597.5)
金物	附属金物1式、戸車、フック、水切		附属金物1式、戸車、フック	附属金物1式、戸車、フック、アンクルピース、水切	全左	附属金物1式、戸車、フック、アルミ額縁、水切
塗装						
記号 室名	8 AW 厨房	9 AW 食堂休憩室	10 AW 会議室			
寸法						
箇所	142L	142L	142L			
見込	70	70	70			
材種	アルミサッシ (アルミ付)	アルミサッシ (アルミ付)	アルミサッシ			
硝子	単入型ガラス 6.8% (1597.5)	1-X1 5% (1597.5)	1-X1 5% (1597.5)			
金物	附属金物1式、戸車、フック、アルミ額縁、水切	附属金物1式、戸車、フック、アンクルピース、水切	全左			
塗装						

【 参考図 】

【参考図】

記号 室名	11 AW 救急仮眠室～幹部仮眠室	12 AW 仮眠室	13 AW 署長室～事務室
寸法			
箇所	1ヶ所	1ヶ所	1ヶ所
見込	70	70	70
材種	アルミサッシ (糸網戸付)	アルミサッシ (糸網戸取付可能型) エアタイト仕様 (気密性 2.11/㎡)	アルミサッシ
硝子	糸網入り 6.8mm	糸網入り 6.8mm	1-XI 5mm
金物	附属金物1式 戸車 クレセント アパイルピース 水切	全左	全左
塗装			
記号 室名	14 AW 事務室	15 AW 訓練室	
寸法			
箇所	2ヶ所	1ヶ所	
見込	70	70	
材種	アルミサッシ	アルミサッシ	
硝子	1-XI 5mm	1-XI 4mm	
金物	附属金物1式 戸車 クレセント アパイルピース 水切	全左 アパイルピース (通気孔 20φ@50 防球格子詳細図参照)	
塗装			
記号 室名	16 AW 訓練室	17 AW 訓練室	18 AW 訓練室
寸法			
箇所	1ヶ所	1ヶ所	18 AW 2ヶ所
見込	70	70	70
材種	アルミサッシ	アルミサッシ 排気用外置式窓	アルミサッシ
硝子	糸網入り 6.8mm	糸網入り 6.8mm	糸網入り 6.8mm
金物	附属金物1式 戸車 クレセント 水切 アパイルピース (通気孔 20φ@50 防球格子詳細図参照)	附属金物1式 ワイヤオペレーター ハンドルBOX アルミ窓鎖 水切	附属金物1式 戸車 クレセント アパイルピース 水切
塗装			

【 参考図

【 参考図 】

記号 室名	1 AD ホール	2 AD 1階便所 2階 3階	3 AD 書庫・物置	4 AD 訓練室	5 AD 訓練室	
寸法						
箇所	1ヶ所	3ヶ所	2ヶ所	1ヶ所	1ヶ所	
見込	100	70	70	70	70	
材種	アルミサッシ	アルミサッシ	アルミサッシ	アルミサッシ	アルミサッシ	
硝子	上窓P・ト・X・Y 8% ドア部分 テン・ハ・ラ・イト10%	型ガラス4% アルミ単板3%	型ガラス4% アルミ単板3%	網入ト・X・Y 6.8% アルミ単板3%	網入ト・X・Y 6.8% アルミ単板3%	
金物	フック②③ 押棒③ ガラスサッシ① 附属金物一式	ドアチャック①②③ 握玉付金錠①	ドアチャック①②③ 円筒錠①	フレスト 戸車 引手② 引戸金錠① 木切	フレスト 戸車 引手② 引戸金錠① 樹脂スランズ 木切 アンクルヒース (通気3L 20φ...50φ 防球 格多詳細②)	
塗装	戸当り③	戸当り① アルミ腐食粉 塗装ヒース (3ヶ所詳細②)	戸当り① アンクルヒース	樹脂スランズ		
記号 室名	6 AD 訓練室	7 AD 脱衣室	8 AD 浴室			
寸法						
箇所	1ヶ所	1ヶ所	1ヶ所			
見込	70	70	70			
材種	アルミサッシ フラッシュ戸	アルミサッシ	アルミサッシ			
硝子		型ガラス4% アルミパネル3%	型ガラス4% アルミパネル3%			
金物	フック②③ ケースロック錠① SUS (7ヶ所)	引手 戸車 引戸錠 樹脂スランズ	引手② 戸車 樹脂スランズ アルミ額縁			
塗装	戸当り③ 握玉① アンクルヒース	③ ① アンクルヒース				
記号 室名	1 SD 受付・ホール	2 SD PS (1, 2, 3階)	3 SD 発電機室	4 SD 機械室(A)(B)	5 SD 機械室(A)	6 SD 機械室(B)
寸法						
箇所	2ヶ所	3ヶ所	1ヶ所	2ヶ所	1ヶ所	1ヶ所
見込	170 (扉40)	100 (扉40)	120 (扉50)	100 (扉40)	100 (扉40)	100 (扉40)
材種	スチール	スチール	スチール	スチール	スチール	スチール
硝子						
金物	① ドアチャック② SUS (7ヶ所) ③ ケースロック錠①	① ドアチャック② SUS (7ヶ所) ③ ケースロック錠①	SUS (7ヶ所) ① 握玉② ③ ケースロック錠① フラッシュ④	① ドアチャック② SUS (7ヶ所) ③ ケースロック錠① フラッシュ④	SUS (7ヶ所) ① 握玉② ③ ケースロック錠① ドアチャック③	① ドアチャック② SUS (7ヶ所) ③ ケースロック錠① ドアチャック③ ガラス③
塗装	O.P.	O.P.	O.P.	O.P.	O.P.	FE SUS (7ヶ所) 握玉① フラッシュ④

記号 室名	(7/SD) 非常消毒室	(8/SD) 階段室(B) (1.中2.2階)	(9/SD) 油庫 (9/SD) 充電室	(10/SD) 倉庫	(11/SD) 階段室(A) 2階	(12/SD) 階段室(A) 3階
寸法						
箇所	1ヶ所	4ヶ所	(9/SD) 1ヶ所 (9/SD) 1ヶ所	1ヶ所	1ヶ所	1ヶ所
見込	220 (扉40)	250 (扉50)	100 (扉40)	100 (扉40)	250 (扉50)	120 (扉50)
材種	スチール	スチール	スチール	スチール	スチール	スチール
硝子						
金物	ドアチャック① ケースロック錠① ヒストヒンジ② フランス錠③	フロアヒンジ① ケースハンドル① (1階外) 戸当り (1階外)	ガラス (充電室外) 遮光シート① ドアチャック② ヒストヒンジ③ ケースロック錠①	ドアチャック② ヒストヒンジ③ ケースロック錠①	フロアヒンジ① ヒストヒンジ② ケースハンドル②	フロアヒンジ① ケースハンドル①
塗装	OP	OP	OP	OP	OP	OP
記号 室名	(1/SS) 車庫	(2/SS) 車庫	(3/SS) 車庫			
寸法						
箇所	1ヶ所	1ヶ所	1ヶ所			
見込						
材種	重量スライダースライド式 (強さ80) スラット=インターロック型 表面処理亜鉛めっき鉄板 1.6%	重量スライダースライド式 (強さ50) スラット=ケース表面処理めっき鉄板 ①0.8	重量スライダースライド式 (強さ50) スラット=ケース表面処理めっき鉄板 ①0.8			
硝子						
金物						
塗装	F.E	合成樹脂塗料 焼付	合成樹脂塗料 焼付			
記号 室名	(4/SS) 車庫	(1/OS)				
寸法						
箇所	1ヶ所	1ヶ所				
見込						
材種	重量スライダースライド式 (強さ50) バランス式 スラット=ケース表面処理めっき鉄板 ①0.8	重量スライダースライド式 (強さ50) バランス式 スラット=ケース表面処理めっき鉄板 ①0.8				
硝子						
金物						
塗装	合成樹脂塗料 焼付	合成樹脂塗料 焼付				

【 参考図 】